

感染症発生動向調査事業報告書

－令和6（2024）年版－

山梨県感染症情報センター

目 次

I 事業概要

1 感染症発生動向調査事業	1
2 対象感染症	1
3 定点医療機関	3

II 患者発生状況

1 全数把握対象感染症	5
2 定点把握対象感染症	5
2-1 インフルエンザ／COVID-19 定点から報告された感染症	6
○インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	7
○COVID-19	8
2-2 小児科定点から報告された感染症	9
○RSウイルス感染症	10
○咽頭結膜熱	11
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12
○感染性胃腸炎	13
○水痘	14
○手足口病	15
○伝染性紅斑	16
○突発性発しん	17
○ヘルパンギーナ	18
○流行性耳下腺炎	19
2-3 眼科定点から報告された感染症	20
○急性出血性結膜炎	21
○流行性角結膜炎	22
2-4 性感染症定点から報告された感染症	23
○性器クラミジア感染症	24
○性器ヘルペスウイルス感染症	25
○尖圭コンジローマ	26
○淋菌感染症	27
2-5 基幹定点から報告された感染症	28
○感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)	29
○クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	30

○ 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）	31
○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	32
○ マイコプラズマ肺炎	33
○ 無菌性髄膜炎	34
○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	35
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症	36

III 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況	37
2 細菌検出状況	38

IV 参考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧	39
2 全数把握対象感染症の報告数	41
3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数	42
4 前年（令和5年）との定点当たり報告数の比較	43
5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移	44
6 警報・注意報レベル発令週	45
7 感染症発生動向調査の調査報告週対応表	46

I 事業概要

1 感染症発生動向調査事業

感染症発生動向調査は、昭和 56 年から開始され、平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、「法」という）の施行に伴う施策として位置づけられた調査である。本調査は、感染症の発生情報の把握と分析を行い、その結果を住民や医療機関へ迅速に情報提供・公開することで、感染症の発生やまん延の防止を目的として実施されている。

県（「山梨県感染症情報センター」）では、本調査事業対象となる感染症について、週・月単位で流行状況を収集、解析すると共に、行政検査で検出した病原微生物検出状況も併せて県ホームページ（やまなし感染症ポータルサイト）をとおして、広く県民や医療機関等へ情報提供を行っている。

なお、平成 31 年 4 月には、甲府市の中核市移行に伴い、甲府市保健所が設置されている。市内の感染症発生状況については甲府市が感染症の動向の把握や情報提供を行っているが、本報告書には、県感染症情報センターとして甲府市分も併せて掲載する。

2 対象感染症

令和 6 年 4 月 1 日現在、全数把握対象 91 感染症、定点把握対象 26 感染症及び、法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症を調査対象としている。

全数把握対象感染症

	対 象 感 染 症
一類感染症	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、 (4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。)、(12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。)、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)、 (22)A型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)エムポックス、(25)黄熱、 (26)オウム病、(27)オムスク出血熱、(28)回帰熱、(29)キャサヌル森林病、(30)Q熱、(31)狂犬病、(32)コクシジオイデス症、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。)、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、 (46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻

	痘、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)、(66)カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、(68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群、(73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症	(113)新型インフルエンザ、(114)再興型インフルエンザ、(115) 新型コロナウイルス感染症、(116)再興型新型コロナウイルス感染症
指定感染症	なし

定点把握対象感染症

	対 象 感 染 症
小児科定点	(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(91)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(92)感染性胃腸炎、(97)水痘、(101)手足口病、(102)伝染性紅斑、(103)突発性発しん、(105)ヘルパンギーナ、(111)流行性耳下腺炎
インフルエンザ／COVID-19 定点	(90)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)、(96)新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)(以下、「COVID-19」とする)
眼科定点	(93)急性出血性結膜炎、(110)流行性角結膜炎
性感染症定点	(98)性器クラミジア感染症、(99)性器ヘルペスウイルス感染症、(100)尖圭コンジローマ、(112)淋菌感染症

基幹定点	(92)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)、(94)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(95)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(104)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106)マイコプラズマ肺炎、(107)無菌性髄膜炎、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症定点	(117)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

3 定点医療機関

県内の定点把握対象五類感染症を把握するため、県では、人口及び医療機関の分布を考慮し、患者定点若しくは、病原体定点として医療機関を指定している（指定医療機関）。（医療機関名は、IV参考資料の1「感染症発生動向調査の指定届出機関一覧」を参照）

【定点等説明】

患者 定 点：定点把握対象感染症（五類感染症）の発生状況を報告する医療機関

小 児 科 定 点：小児科を標榜し、小児科定点把握対象感染症の発生状況を報告する医療機関

内 科 定 点：内科を標榜し、インフルエンザ及びCOVID-19の発生状況を報告する医療機関

インフルエンザ／COVID-19 定 点：インフルエンザ及びCOVID-19の発生状況を報告する小児科定点及び内科定点医療機関

眼 科 定 点：眼科を標榜し、眼科定点把握対象感染症の発生状況を報告する医療機関

性 感 染 症 定 点：産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜し、性感染症定点把握対象感染症の発生状況を報告する医療機関

基 幹 定 点：患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜し、基幹定点把握対象感染症の発生状況を報告する医療機関

疑 似 症 定 点：疑似症の発生状況を報告する医療機関

病 原 体 定 点：病原体の分離等の検査情報を収集するため、病原体検査のための検体等を採取する医療機関

Ⅱ 患者発生状況

1 全数把握対象感染症

山梨県及び全国における令和6年の全数把握対象感染症の報告数を「IV参考資料」の2に示した。

2 定点把握対象感染症

《五類感染症》

山梨県および全国における令和6年の定点把握対象感染症の報告数と定点医療機関当たりの患者報告数※¹（以下、「定点当たり報告数」という）をIV参考資料の3に示した。

また、前年（令和5年）との定点当たり報告数の比較をIV参考資料の4に示した。

《疑似症》

法第14条1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症である、「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。」の報告はなかった。

※1：定点医療機関当たりの患者報告数とは

定点医療機関から1週間に報告される患者数を、定点医療機関数で割った値である。

注意報レベル、警報レベルについて

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾患について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにある。

- 警 報レベル 大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指す。
- 注意報レベル 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指す。

警報レベルは、保健所単位で集計した1週間の定点当たり報告数がある基準値（開始基準値）以上で開始し、別の基準値（終息基準値）未満で終息となる。注意報レベルは、1週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合である。

警報・注意報基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、以下のとおり定められている。

感 染 症	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	－
感染性胃腸炎	20	12	－
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	－
伝染性紅斑	2	1	－
ヘルパンギーナ	6	2	－
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	－
流行性角結膜炎	8	4	－

基準値はすべて定点当たり報告数である。注意報の「－」は対象としないことを意味する。

2-1 インフルエンザ／COVID-19 定点から報告された感染症

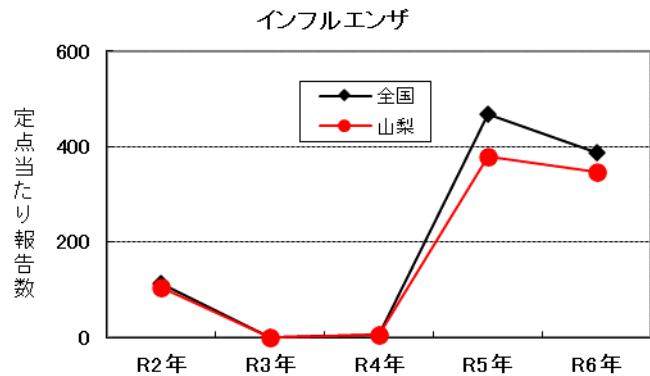
県内 41 カ所のインフルエンザ／COVID-19 定点から、対象感染症であるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）及びCOVID-19 について週報として報告される。

総報告数は 29,870 例で前年（28,950 例）より増加した。前年と比較して報告数が増加したのは COVID-19 であった。

○インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）

定点から 14,250 例（定点当たり報告数 347.56）の報告があり、前年 15,596 例（380.39）より減少した。

最近 5 年間は全国とほぼ同様に推移している。

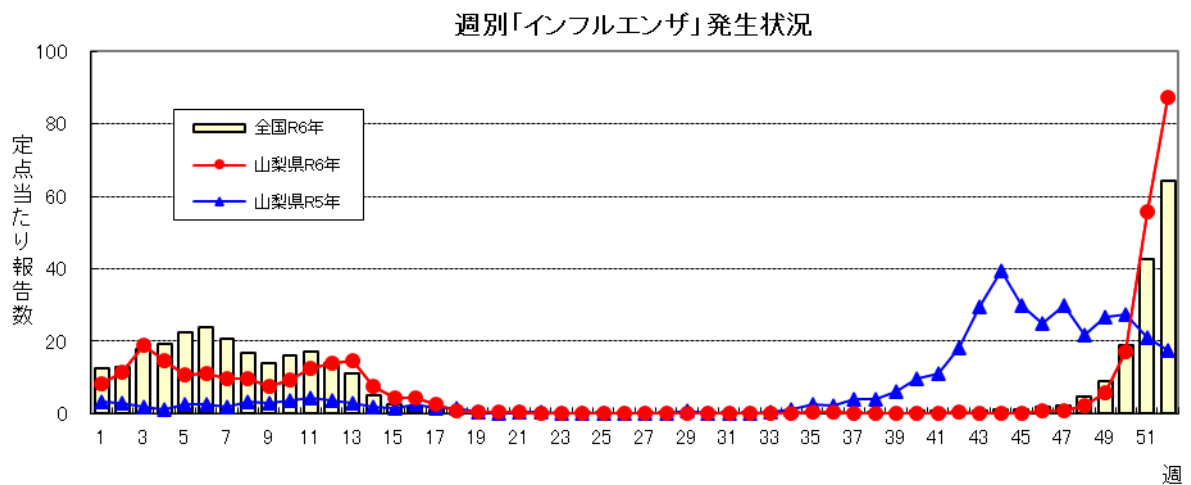


《週別発生状況》

前年に引き続き、第 1 週から定点当たり報告数が 10.0 前後で推移したが、第 14 週からは減少し、第 18 週には流行期の目安である 1.0 を下回った。

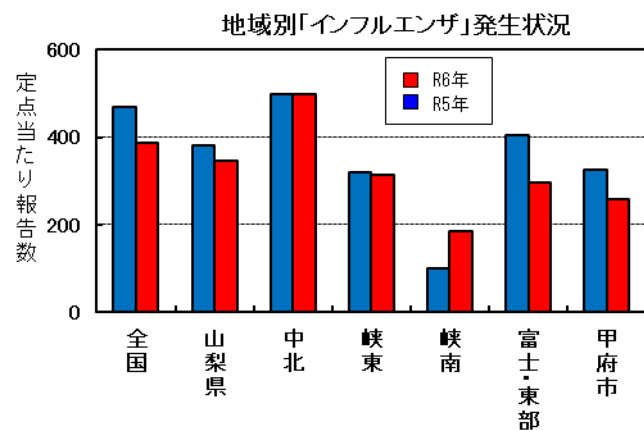
第 48 週には再び 1.0 を超えて増加し、第 51 週には全ての保健所管内で警報レベルとなった。

年間をとおした発生状況は全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（499.77）であった。

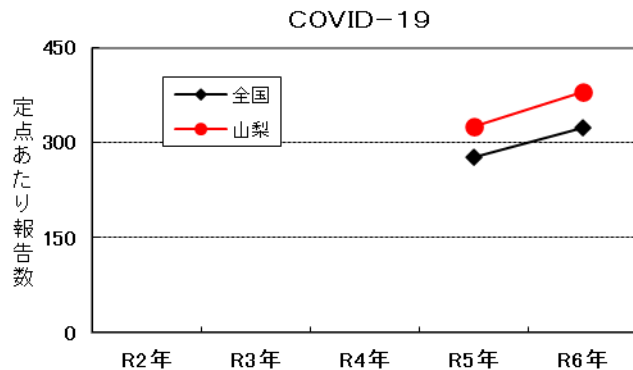


〇COVID-19

定点から15,620例（定点当たり報告数380.98）の報告があり、前年13,354例（325.71）より増加した。

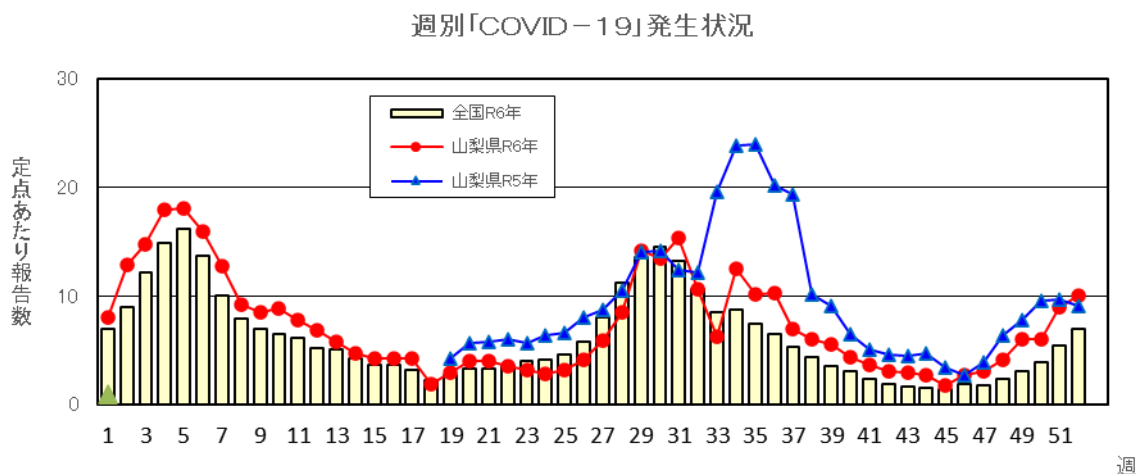
定点当たり報告数は全国より多い状況で推移している。

※令和5年は5月8日以降の報告分のみ



《週別発生状況》

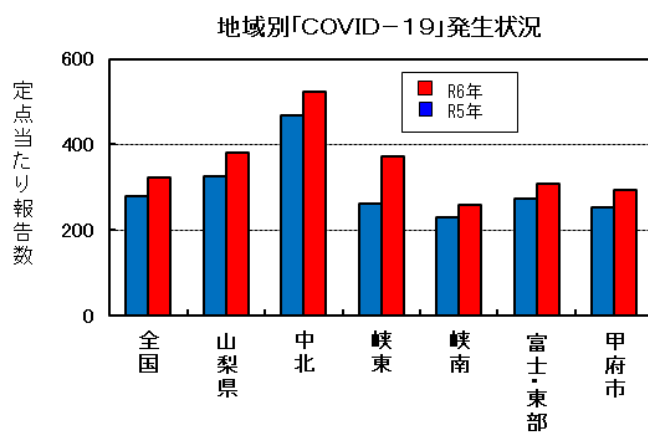
第5週（18.12）、第31週（15.41）の報告数が多かった。年間をとおした発生状況は全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（524.46）であった。

全ての保健所管内で前年より増加した。



2-2 小児科定点から報告された感染症

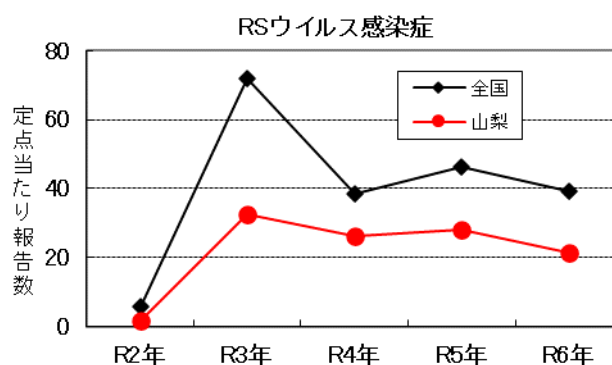
県内 24 カ所の小児科定点から、対象感染症である RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎について週報として報告される。

総報告数は 12,093 例で、前年（9,461 例）より増加した。前年と比較して報告数が増加したのは咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑及び流行性耳下腺炎であった。

○ RSウイルス感染症

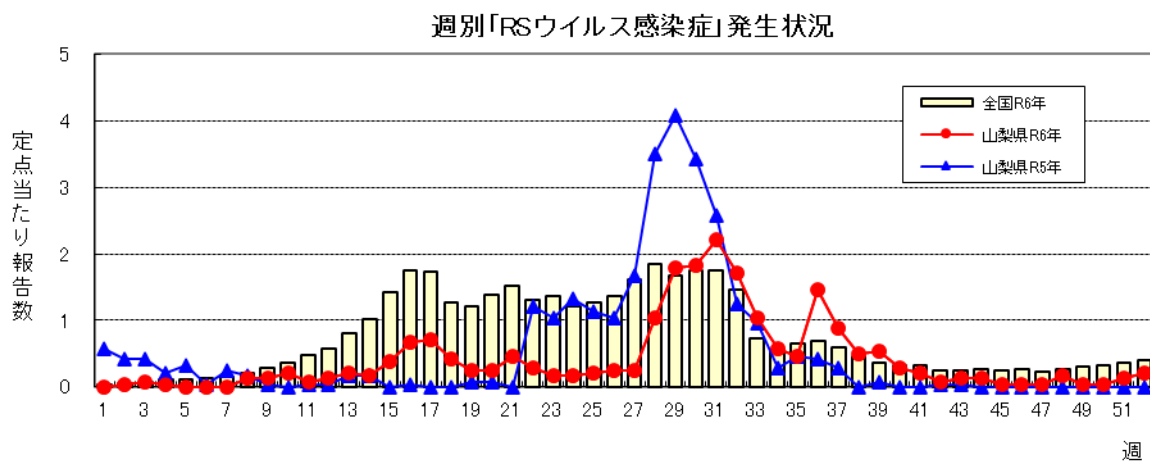
定点から 510 例（定点当たり報告数 21.25）の報告があり、前年 670 例（27.92）より減少した。

最近 5 年間は定点当たり報告数が全国より少ない状況で、同様に推移している。



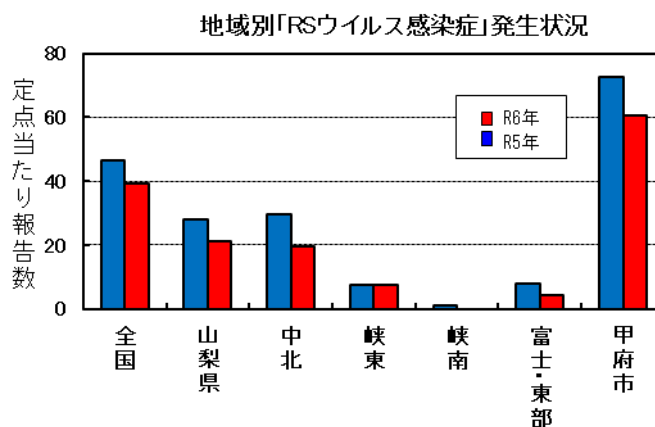
《週別発生状況》

全国では第 9 週から報告数の増加がみられたが、本県では第 28 週から増加し、第 31 週（2.21）をピークとする夏期の流行がみられた。



《地域別発生状況》

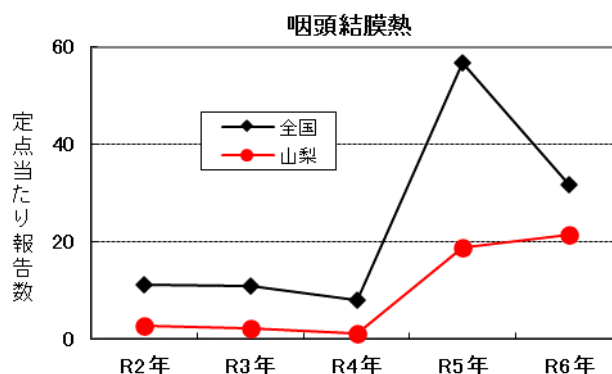
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（60.40）であり、県内報告数の約 6 割を占めた。



○ 咽頭結膜熱

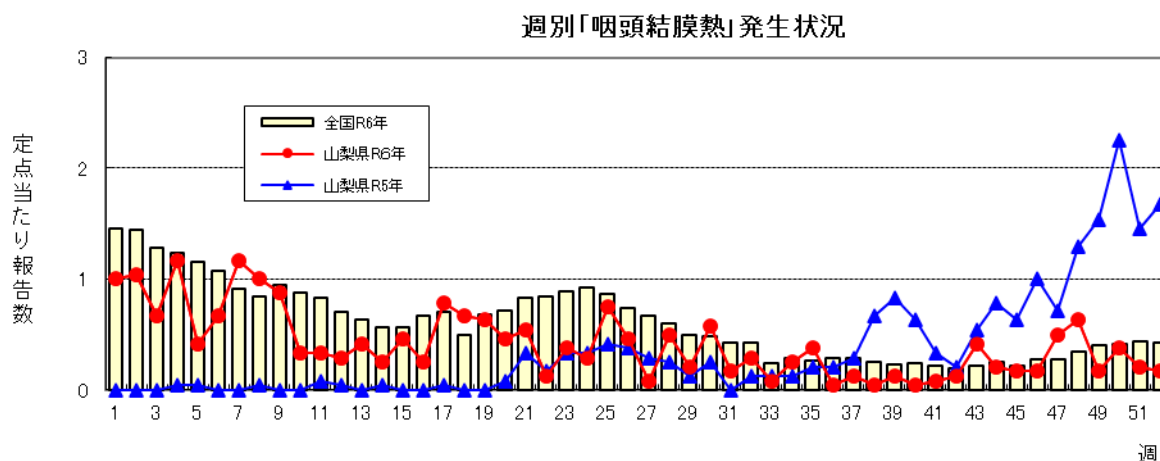
定点から 517 例（定点当たり報告数 21.54）の報告があり、前年 454 例（18.92）より増加した。

最近 5 年間は定点当たり報告数が全国より少ない状況で推移している。



《週別発生状況》

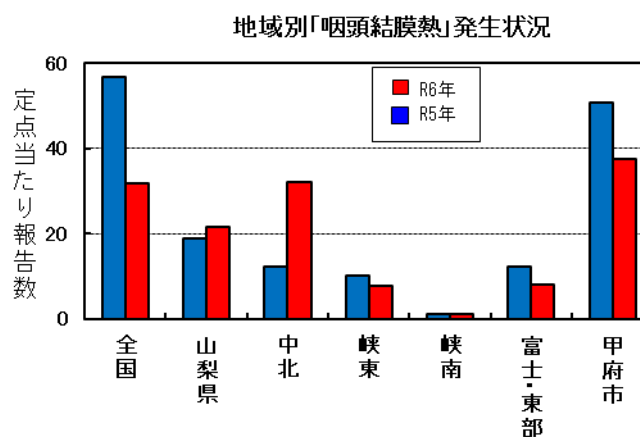
年間をとおして報告があったが、全国と同様、年の前半に報告数が多かった。甲府市保健所管内では第 1 週から第 4 週にかけて警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（37.40）であった。

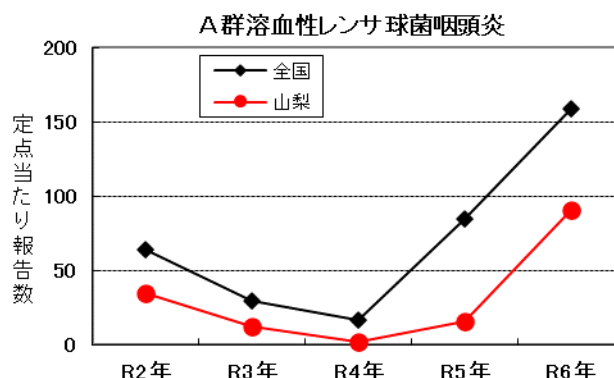
中北保健所管内では前年より報告数が増加した。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

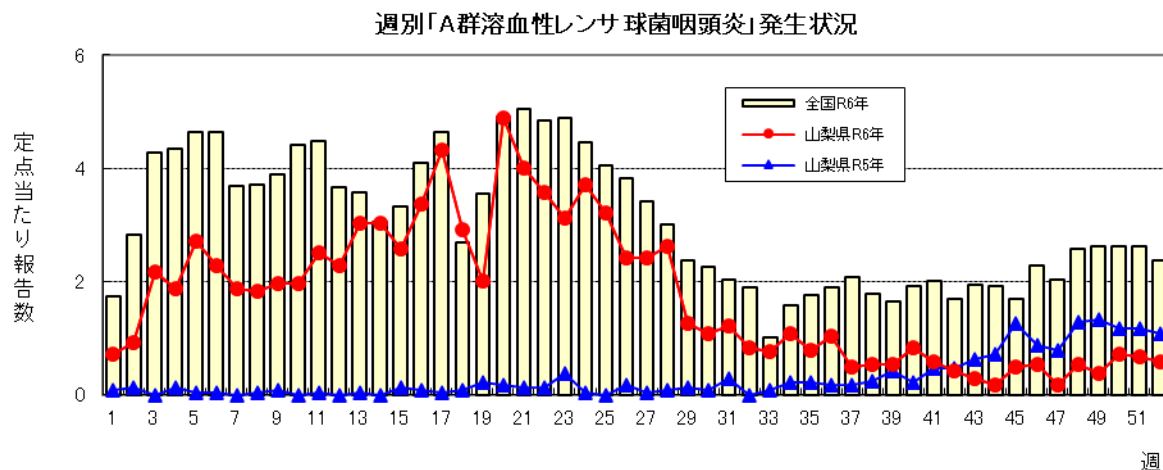
定点から 2,168 例（定点当たり報告数 90.33）の報告があり、前年 377 例（15.71）より大幅に増加した。

最近 5 年間は定点当たり報告数が全国より少ない状況で同様に推移している。



《週別発生状況》

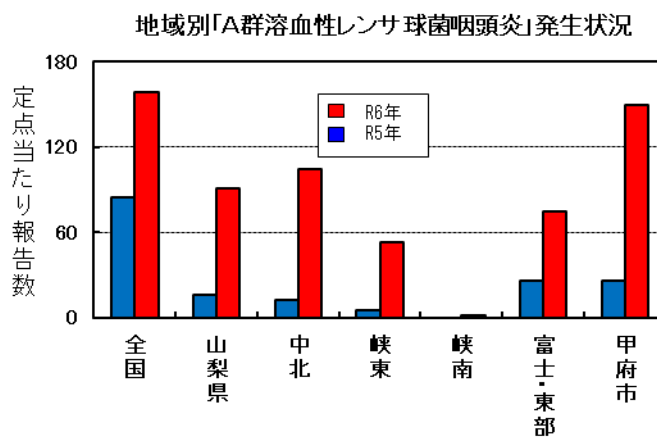
年間をとおして報告があつたが、全国と同様、年の前半に報告数が多かった。この期間中、甲府市保健所管内では複数週に渡り警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（149.20）であつた。

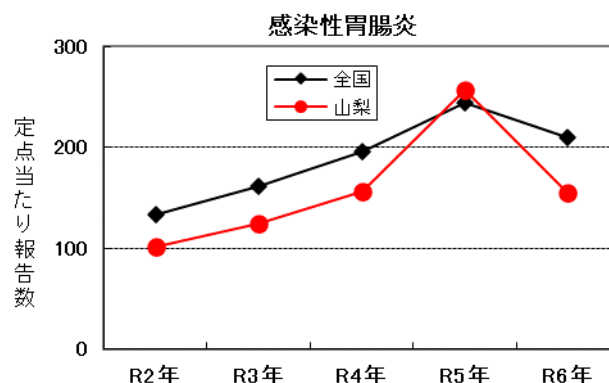
全ての保健所管内で前年より増加した。



○ 感染性胃腸炎

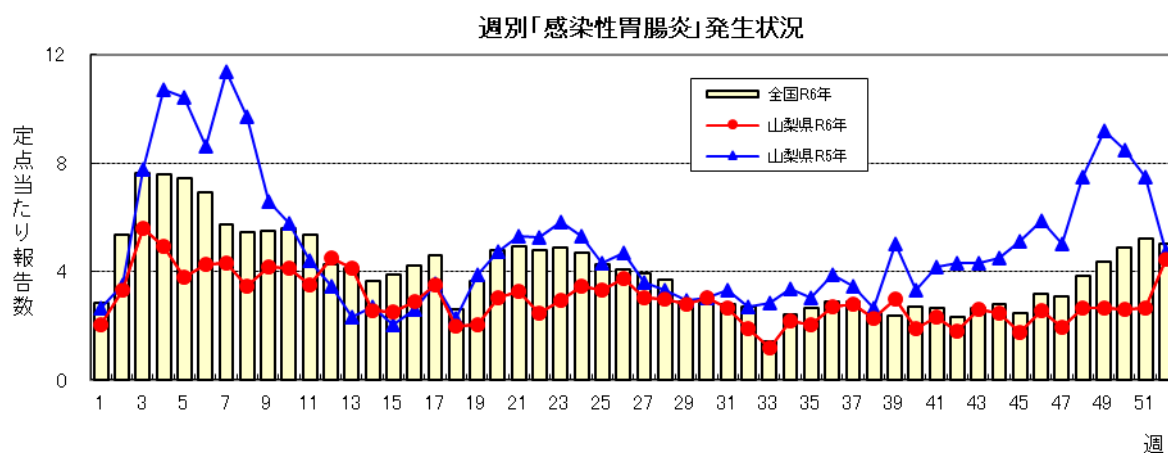
定点から 3,708 例（定点当たり報告数 154.50）の報告があり、前年 6,158 例（256.58）より減少した。

最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

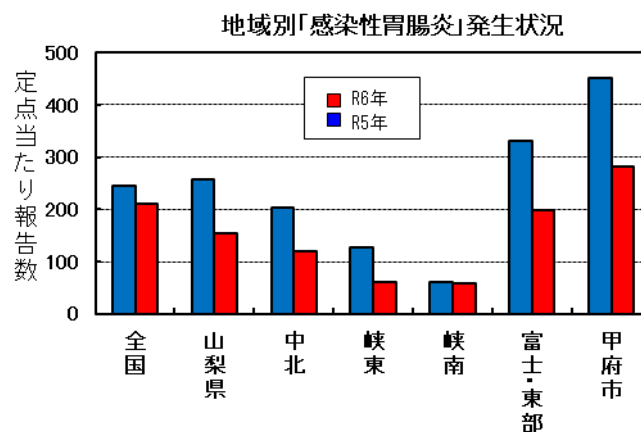
年間をとおして報告があったが、第 3 週から第 7 週の冬期に報告数が多い傾向が見られ、全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（280.60）であった。

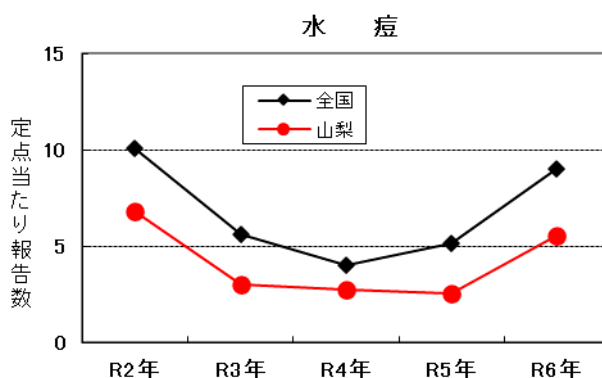
全ての保健所管内で前年より報告数が減少した。



○ 水 痘

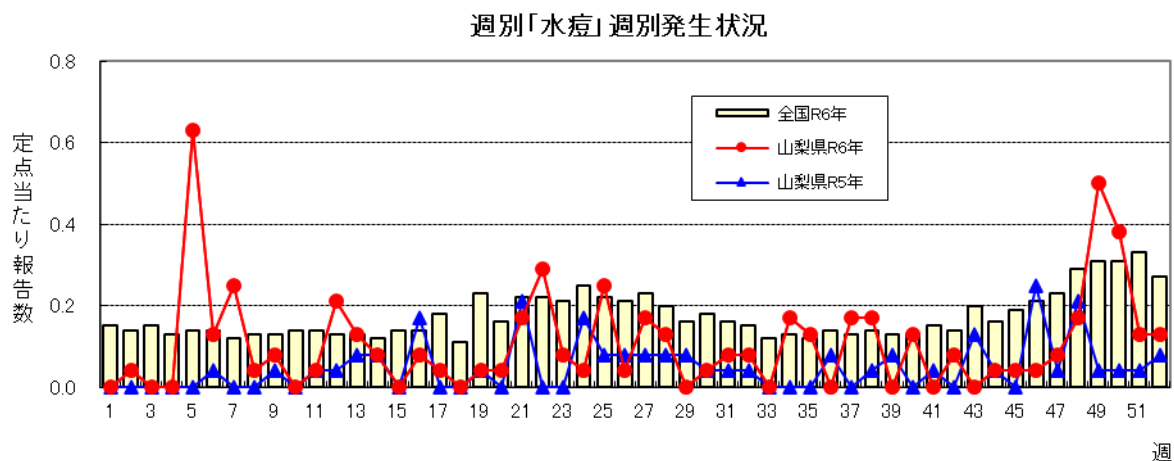
定点から 133 例（定点当たり報告数 5.54）の報告があり、前年 62 例（2.58）より増加した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で、同様に推移している。



《週別発生状況》

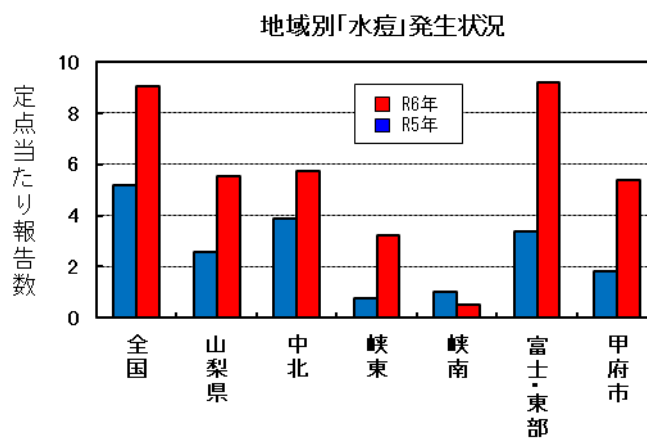
年間をとおして報告があり、第 5 週には中北保健所管内、第 49 週には富士・東部保健所管内、第 25 週には甲府市保健所管内で注意報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（9.20）であった。

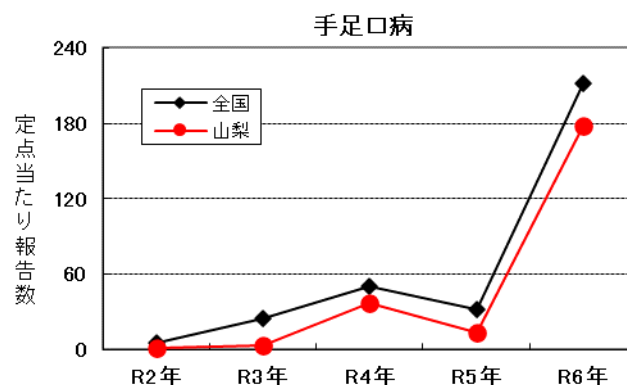
峡南保健所管内を除く保健所管内で前年より増加した。



○ 手足口病

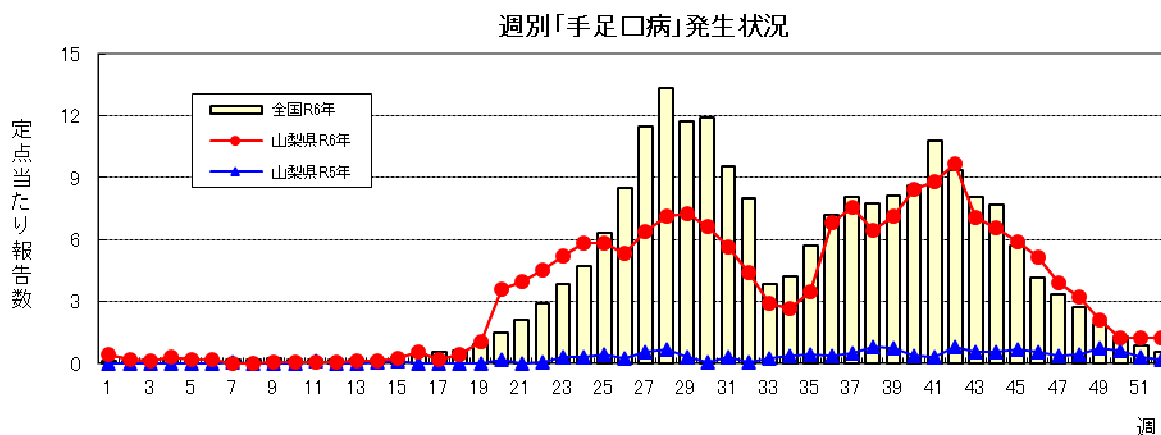
定点から 4,266 例（定点当たり報告数 177.75）の報告があり、前年 336 例（14.00）より大幅に増加した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で同様に推移している。



《週別発生状況》

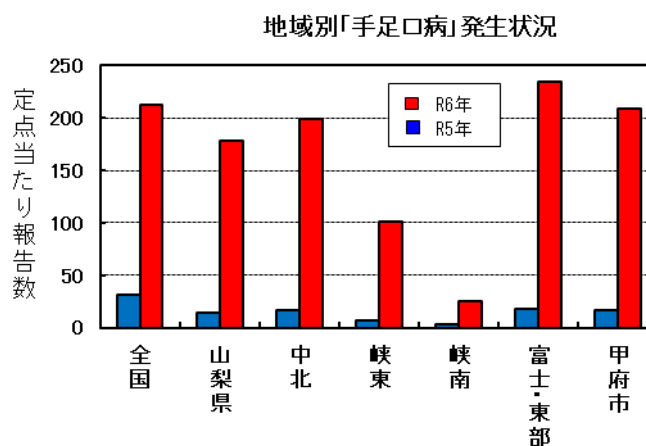
第 29 週（7.29）、第 42 週（9.67）をピークとする二峰性の流行がみられた。この期間中、中北保健所管内、峡東保健所管内、富士・東部保健所管内、甲府市保健所管内では、複数週に渡り警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（234.60）であった。

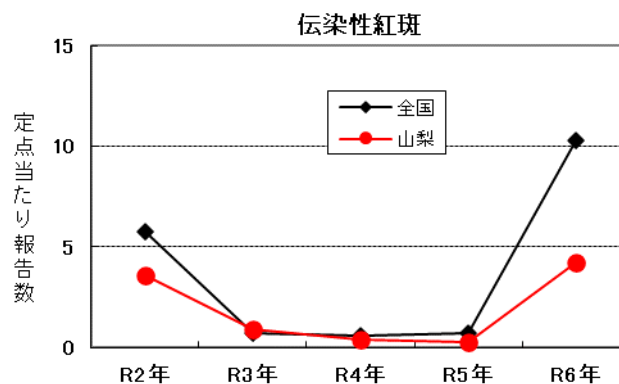
全ての保健所管内で前年より大幅に増加した。



○ 伝染性紅斑

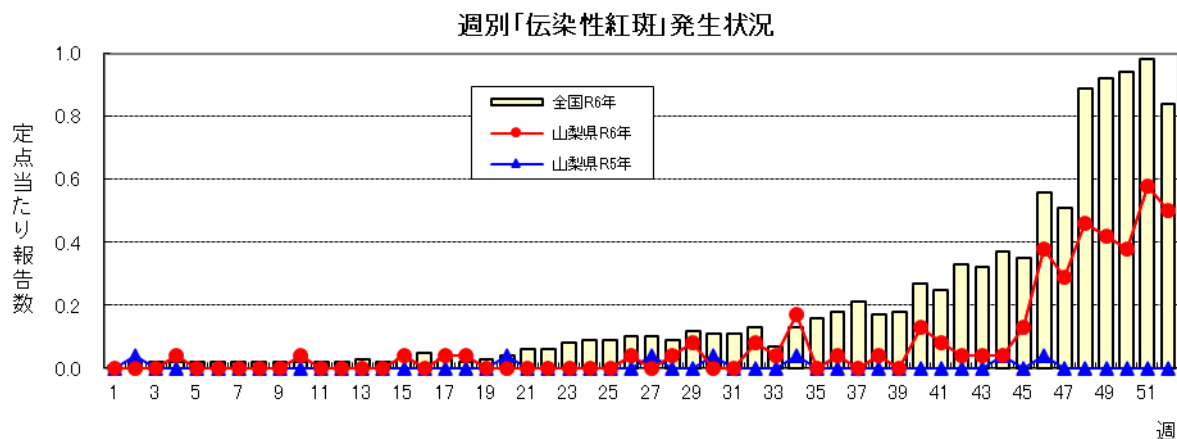
定点から 101 例（定点当たり報告数 4.21）の報告があり、前年 7 例（0.29）より大幅に増加した。

最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

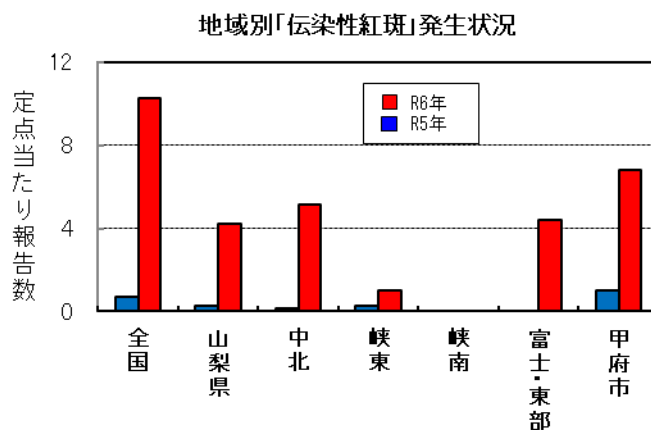
第 45 週から報告数の増加がみられ、第 51 週（0.58）が最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（6.80）であった。

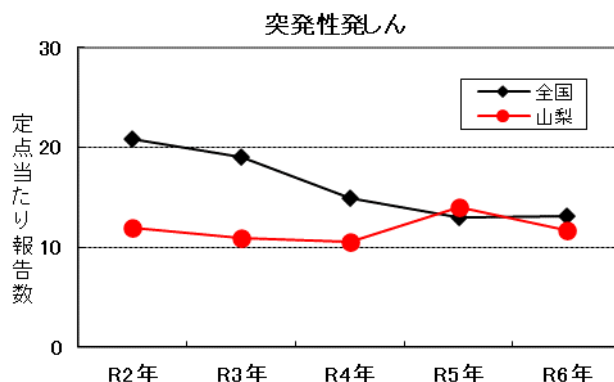
報告のなかった峡南保健所管内を除き、他の保健所管内では報告数が増加した。



○ 突発性発しん

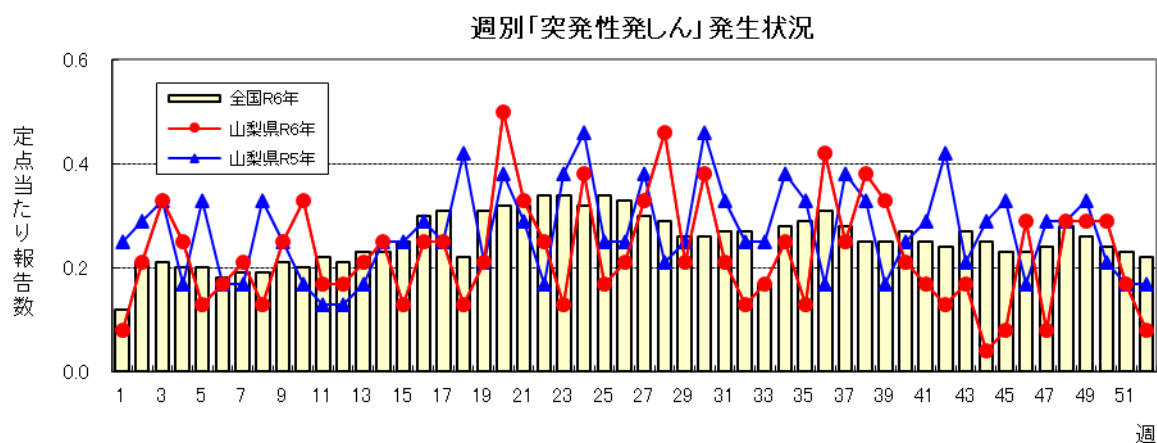
定点から 281 例（定点当たり報告数 11.71）の報告があり、前年 336 例（14.00）より減少した。

最近 5 年間はほぼ横ばいで推移している。



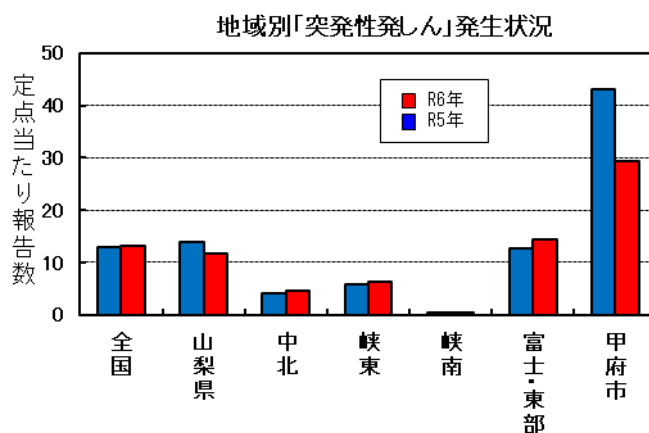
《週別発生状況》

年間をとおして報告があつたが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

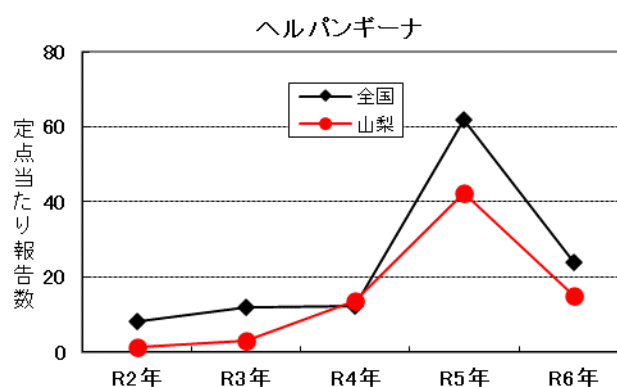
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（29.40）であり、県内報告数の約半数を占めた。



○ ヘルパンギーナ

定点から 364 例（定点当たり報告数 15.17）の報告があり、前年 1,019 例（42.46）より大幅に減少した。

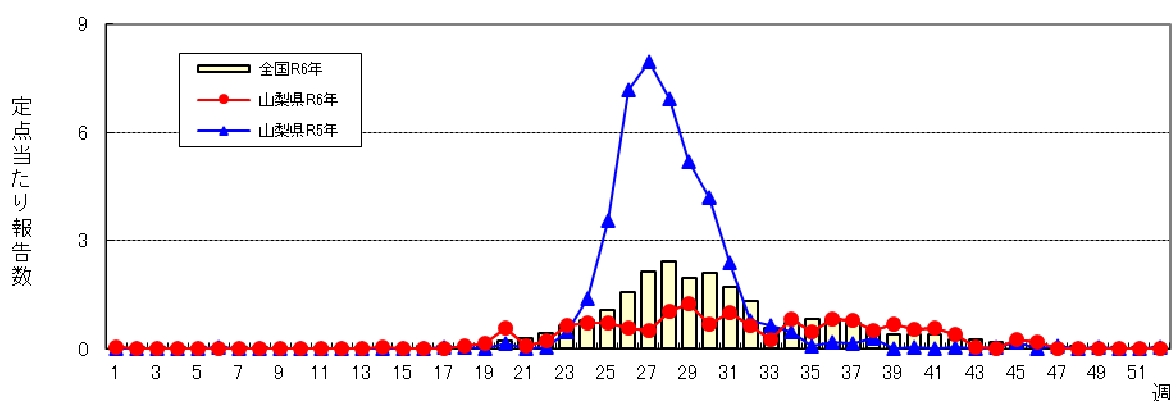
最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

夏期に報告数の増加がみられ、第 29 週（1.25）が最も多かった。

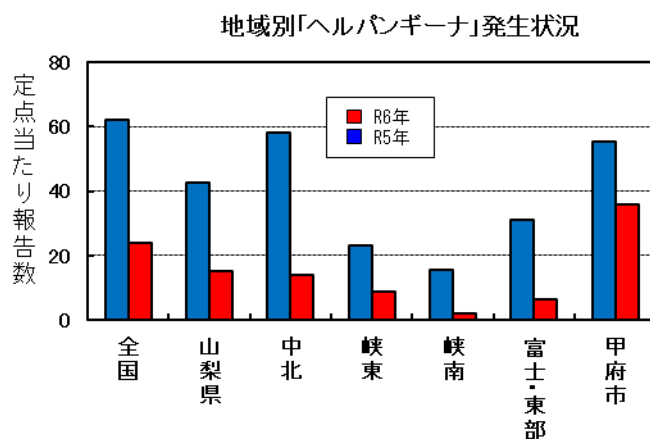
週別「ヘルパンギーナ」発生状況



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内（35.80）であり、県内報告数の約半数を占めた。

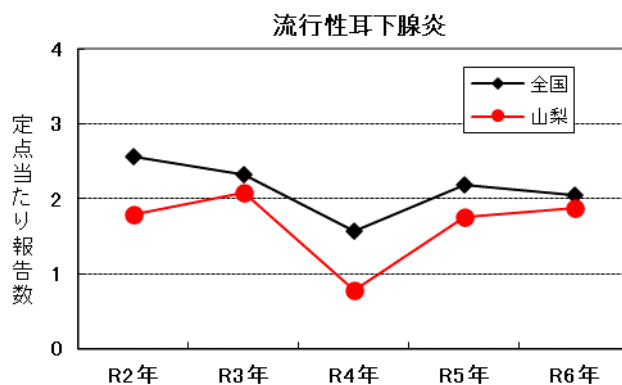
全ての保健所管内で前年より報告数が減少した。



○ 流行性耳下腺炎

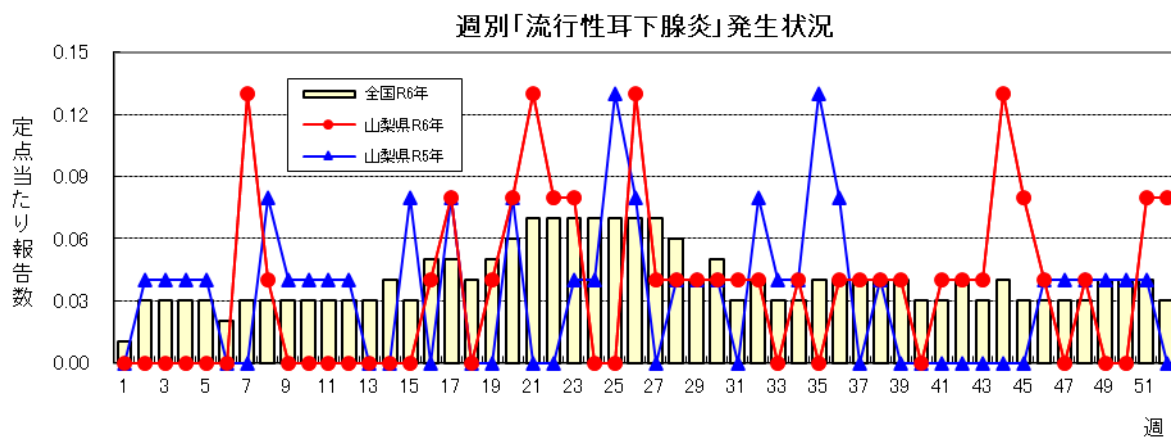
定点から 45 例（定点当たり報告数 1.88）の報告があり、前年 42 例（1.75）よりやや増加した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で同様に推移している。



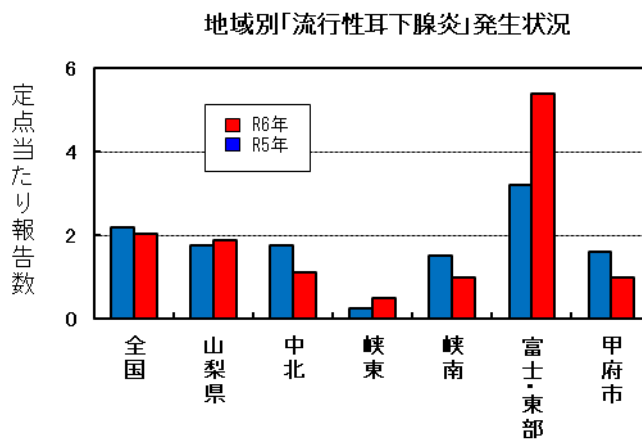
《週別発生状況》

年間をとおして報告があったが、大きな流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（5.40）であり、県内報告数の約 6 割を占めた。



2－3 眼科定点から報告された感染症

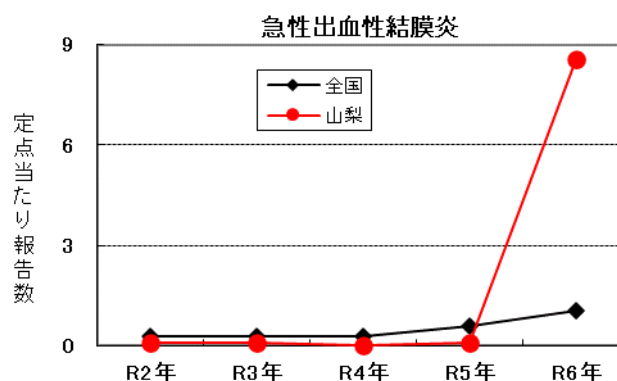
県内 9 カ所の眼科定点から、対象感染症である急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎について週報として報告される。

総報告数は 659 例で、前年（176 例）より増加した。前年と比較して報告数が増加したのは急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎であった。

○ 急性出血性結膜炎

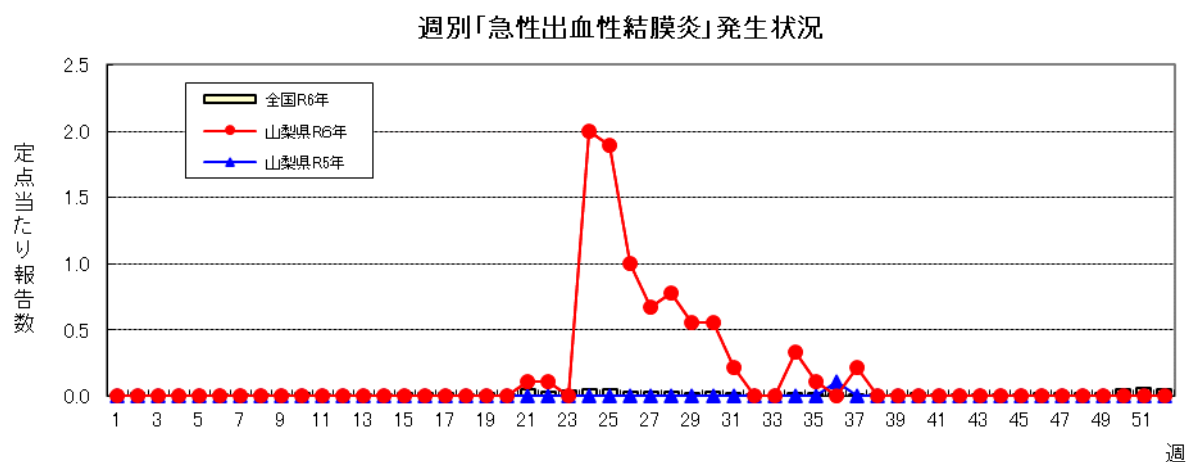
定点から 77 例（定点当たり報告数 8.56）の報告があり、前年 1 例（0.11）より大幅に増加した。

最近 5 年間の全国では、ほぼ横ばいで推移している。



《週別発生状況》

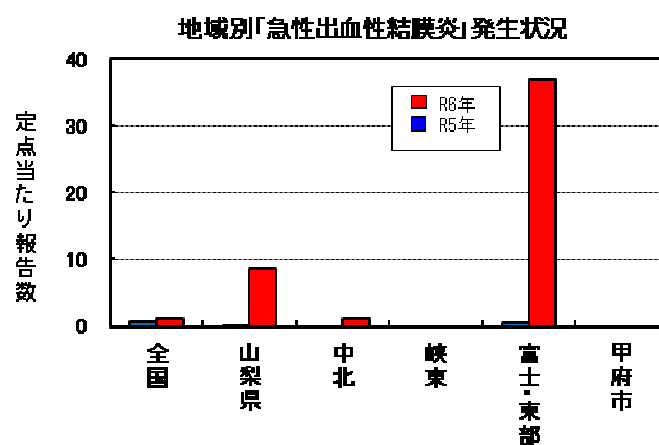
第 24 週（2.00）をピークとする夏期の流行がみられた。富士・東部保健所管内では第 24 週以降、複数週に渡り警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（37.00）であり、県内報告数の約 9 割を占めた。

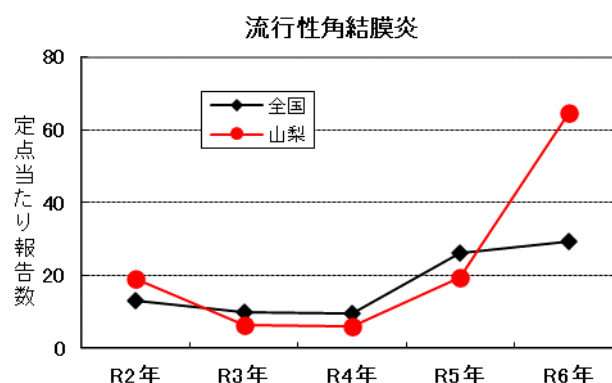
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 流行性角結膜炎

定点から 582 例（定点当たり報告数 64.67）の報告があり、前年 175 例（19.44）より大幅に増加した。

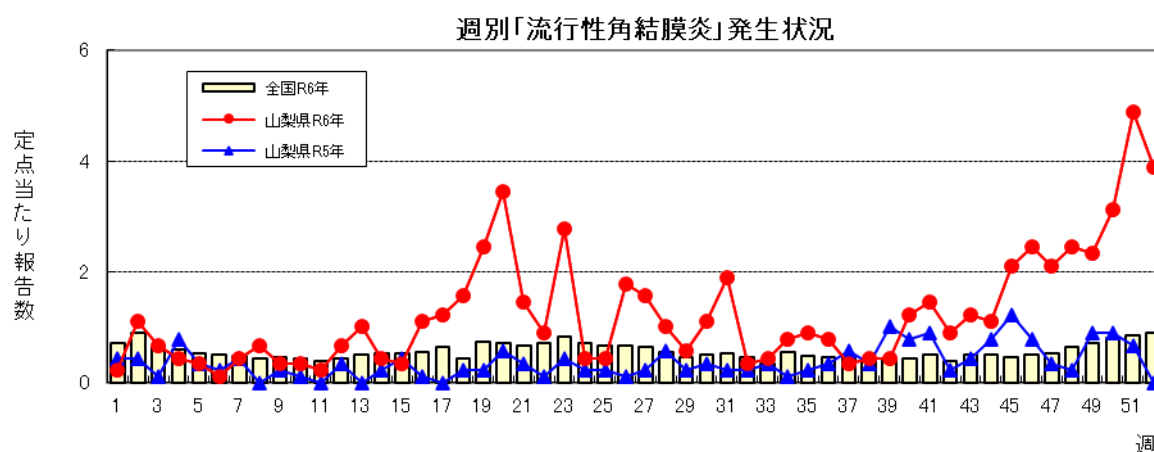
最近 5 年間の全国では、ほぼ横ばいで推移している。



《週別発生状況》

年間をとおして報告があったが、第 20 週（3.44）及び第 51 週（4.89）の報告数が多かった。

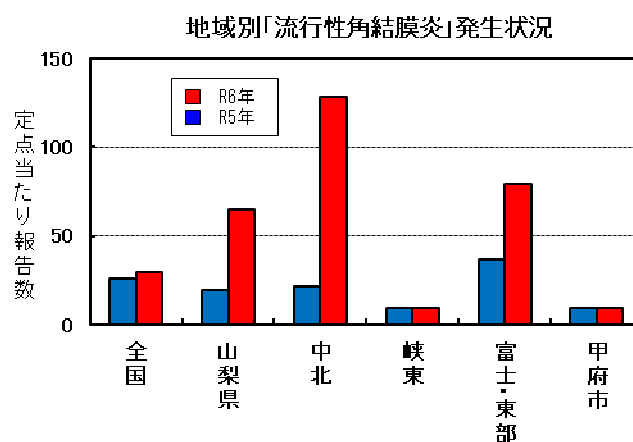
中北保健所管内では第 51 週、第 52 週、富士・東部保健所管内では第 23 週に警報レベルとなった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（128.33）、次いで富士・東部保健所管内（79.50）であった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



2-4 性感染症定点から報告された感染症

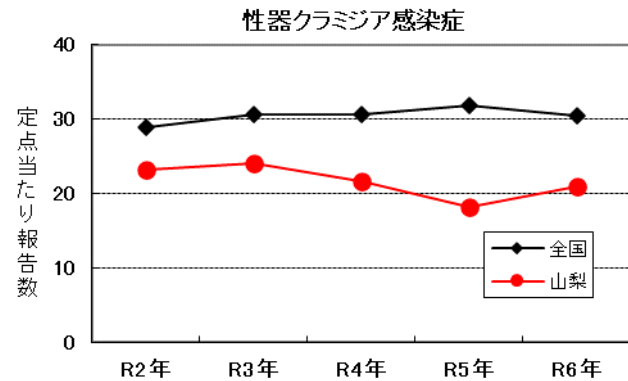
県内 9 カ所の性感染症定点から、対象感染症である性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症について月報として報告される。

総報告数は 335 例で、前年（322 例）より 3 例増加した。前年と比較して報告数が増加したのは性器クラミジア感染症、淋菌感染症であった。

○ 性器クラミジア感染症

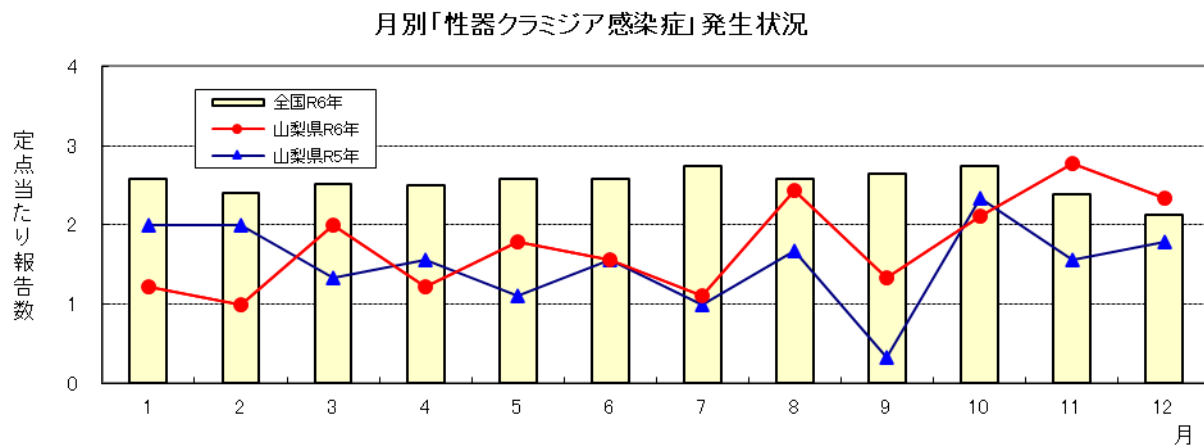
定点から 188 例（定点当たり報告数 20.89）の報告があり、前年 164 例（18.22）より増加した。

最近 5 年間は、ほぼ横ばいで推移している。



《月別報告数》

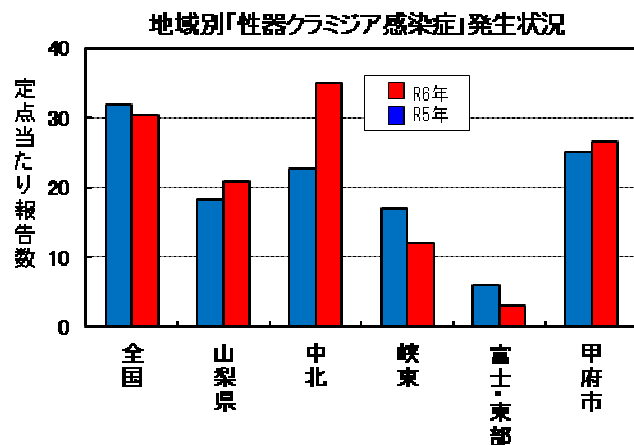
毎月報告があったが、11 月が 25 例（2.78）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（35.00）であった。

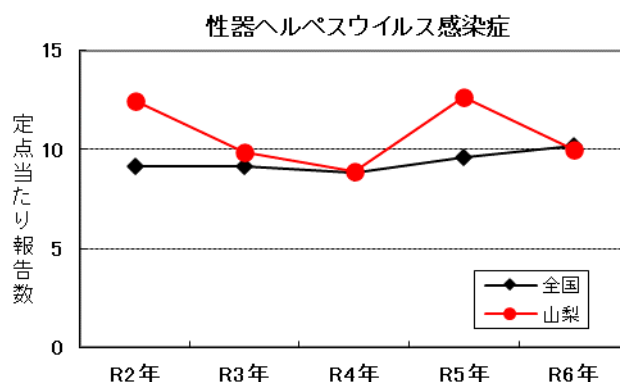
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 性器ヘルペスウイルス感染症

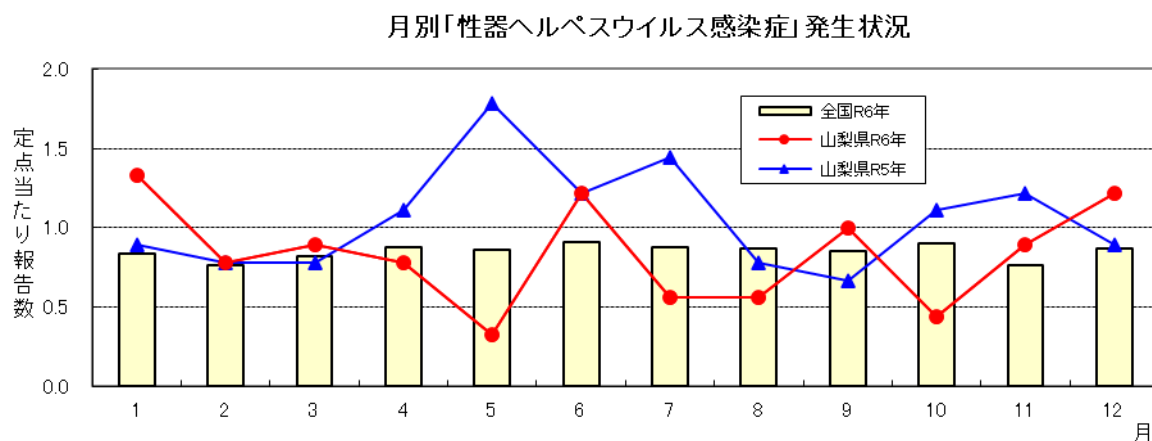
定点から 90 例（定点当たり報告数 10.00）の報告があり、前年 114 例（12.67）より減少した。

最近 5 年間は、ほぼ横ばいで推移している。



《月別発生状況》

毎月報告があったが、1 月が 12 例（1.33）と最も多かった。

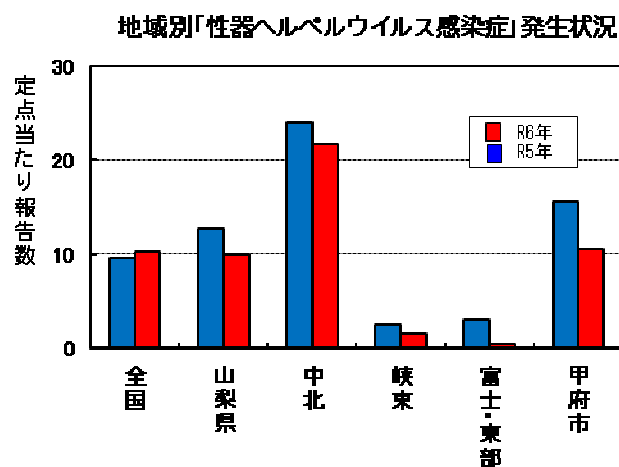


《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（21.67）であり、県内報告数の約 7 割を占めた。

全ての保健所管内で前年より減少した。

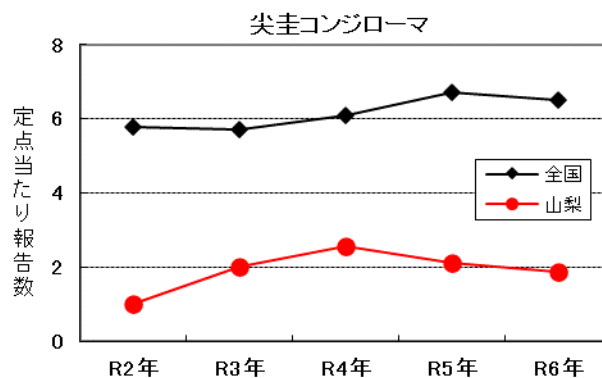
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 尖圭コンジローマ

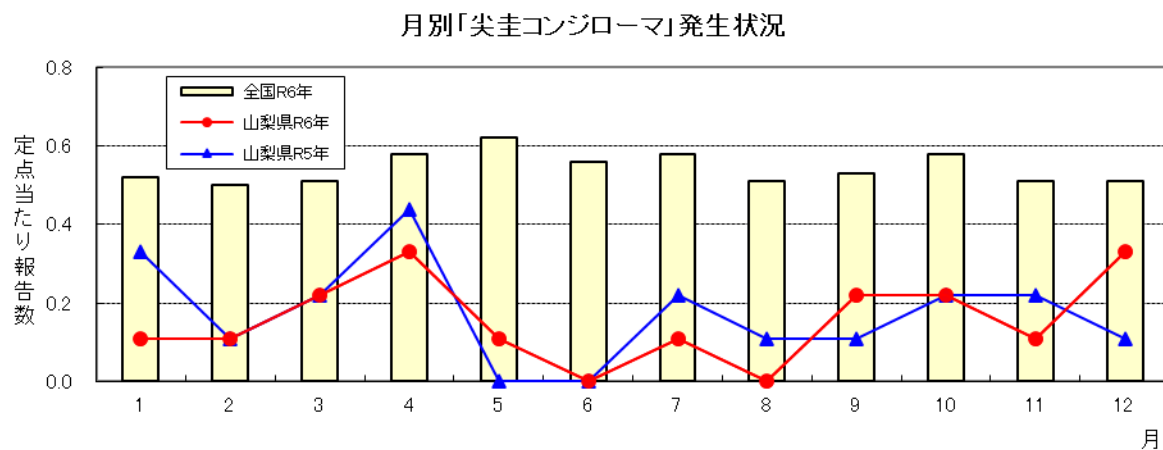
定点から 17 例（定点当たり報告数 1.89）の報告があり、前年 19 例（2.11）よりやや減少した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数でほぼ横ばいで推移している。



《月別発生状況》

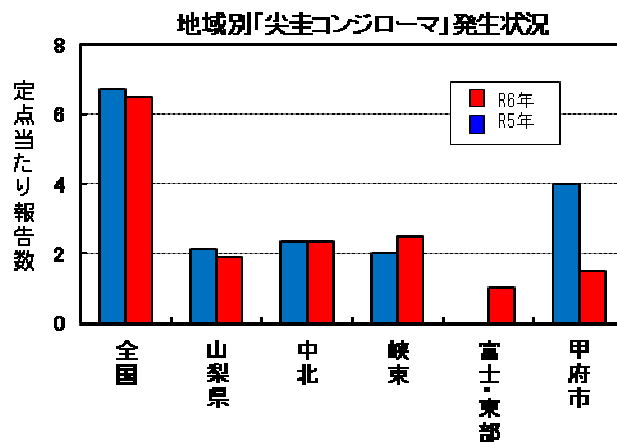
年間をととして報告があったが、4 月及び 12 月が各 3 例（0.33）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内（2.50）であった。

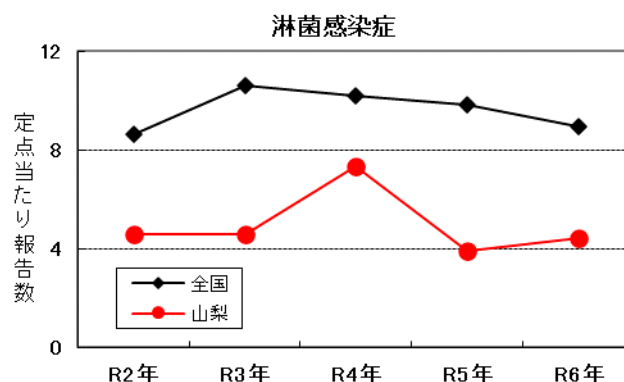
（峡南保健所管内には定点の指定なし）



○ 淋菌感染症

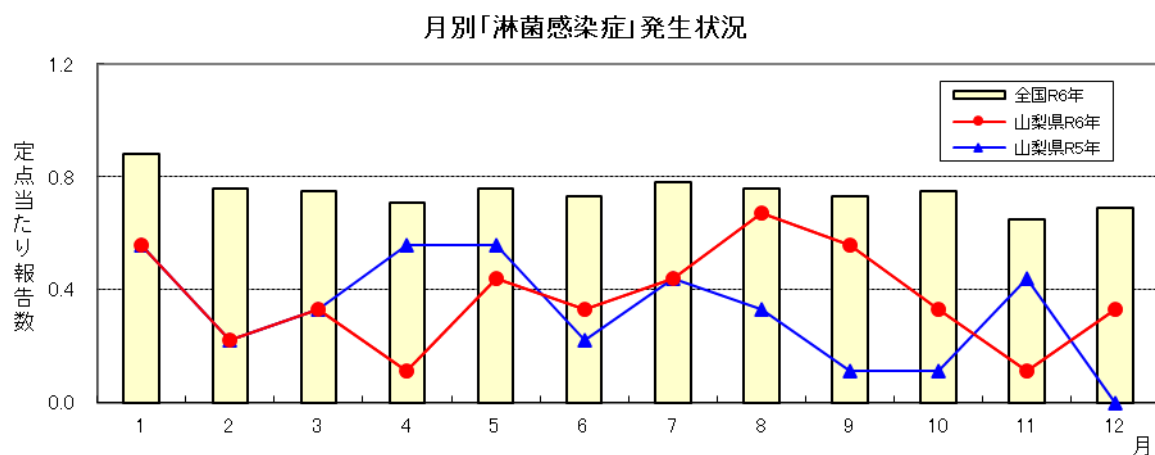
定点から 40 例（定点当たり報告数 4.44）の報告があり、前年 35 例（3.89）よりやや増加した。

最近 5 年間は全国より少ない報告数で推移している。



《月別発生状況》

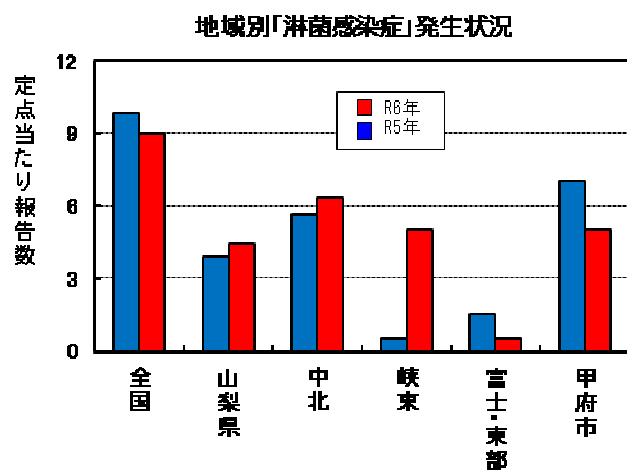
毎月報告があり、8 月が 6 例（0.67）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（6.33）であった。

（峡南保健所管内には定点の指定なし）



2-5 基幹定点から報告された感染症

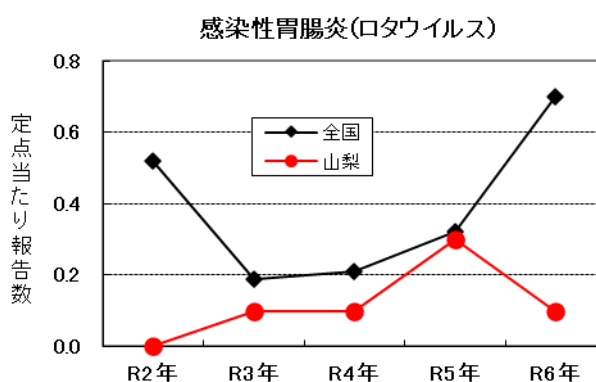
県内 10 カ所の基幹定点から、対象感染症である感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）、クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、マイコプラズマ肺炎及び無菌性髄膜炎(5 疾病)は週報として、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症(3 疾病)は月報として報告される。

総報告数は 401 例で前年（182 例）より増加した。前年と比較して報告数が増加したのはペニシリン耐性肺炎球菌感染症、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症であった。

○ 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

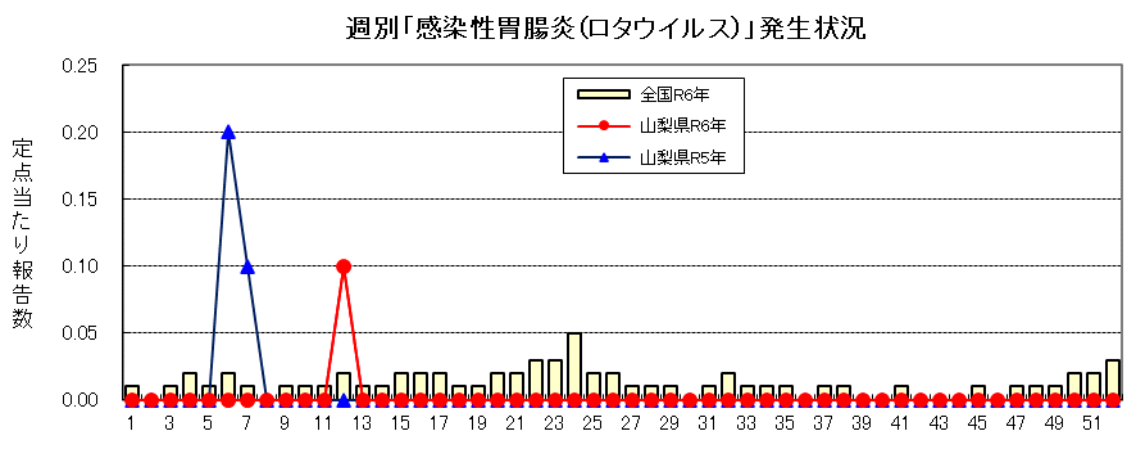
定点から1例（定点当たり報告数0.10）の報告があり、前年3例(0.30)より減少した。

最近5年間は、ほぼ横ばいで推移している。



《週別発生状況》

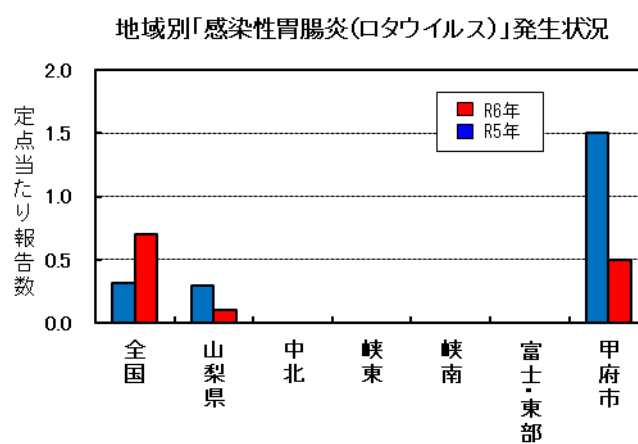
第12週に1例（0.10）の報告があった。



週

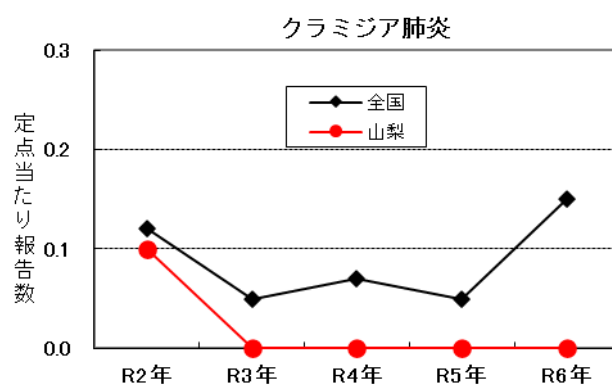
《地域別発生状況》

報告があったのは、甲府市保健所管内（0.50）のみであった。



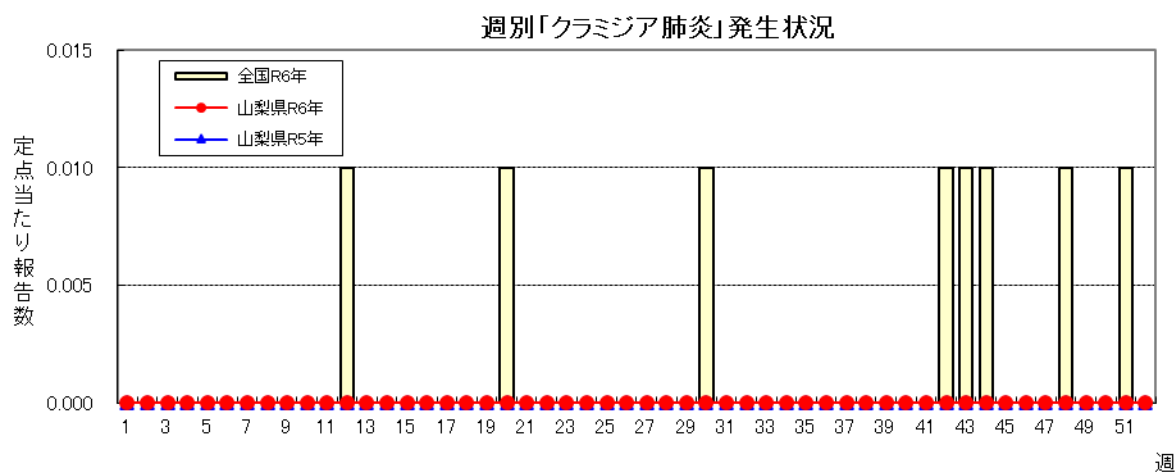
○ クラミジア肺炎（オウム病を除く。）

令和 3 年以降、定点からの報告はなかった。



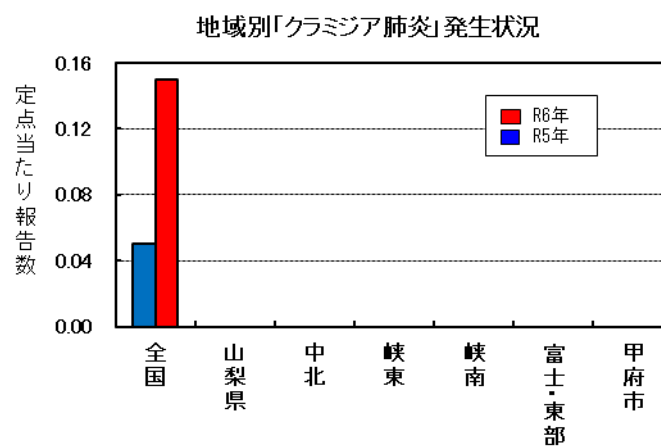
《週別発生状況》

年間をとおして定点からの報告はなかった。



《地域別発生状況》

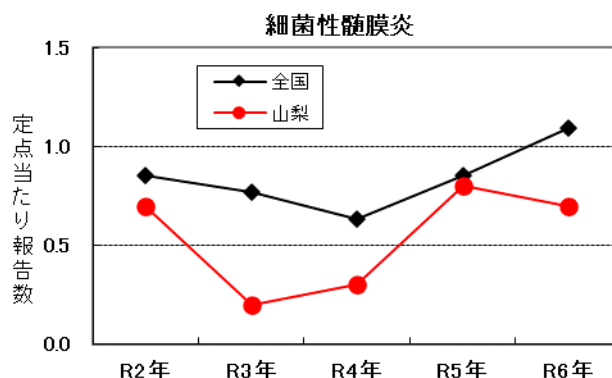
全ての保健所管内で報告はなかった。



○ 細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)

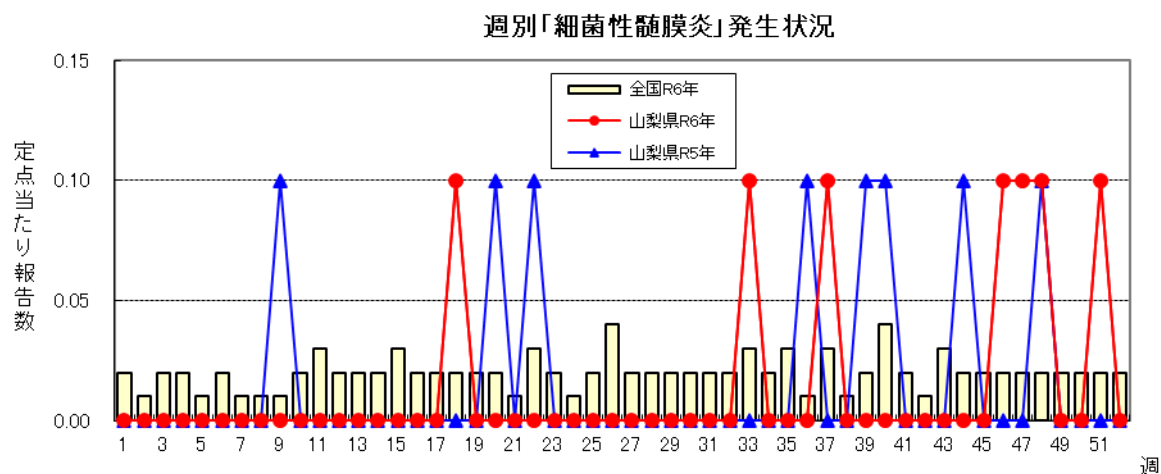
定点から 7 例(定点当たり報告数 0.70)の報告があり、前年 8 例(0.80)より 1 例減少した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で推移している。



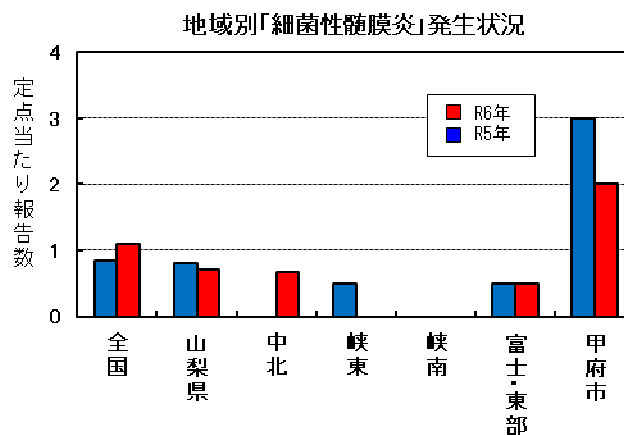
《週別発生状況》

年間をとおして報告があった。



《地域別発生状況》

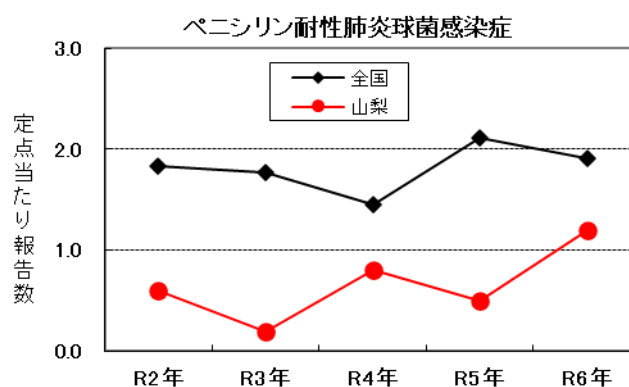
定点当たり報告数が最も多かったのは甲府市保健所管内(2.00)であり、県内報告数の約 6 割を占めた。



○ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

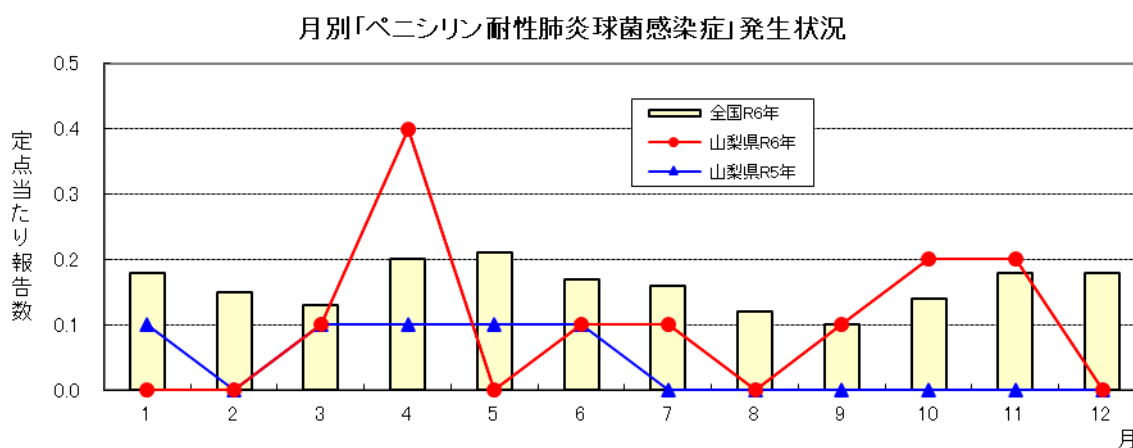
定点から 12 例（定点当たり報告数 1.20）の報告があり、前年 5 例（0.50）より増加した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で推移している。



《月別発生状況》

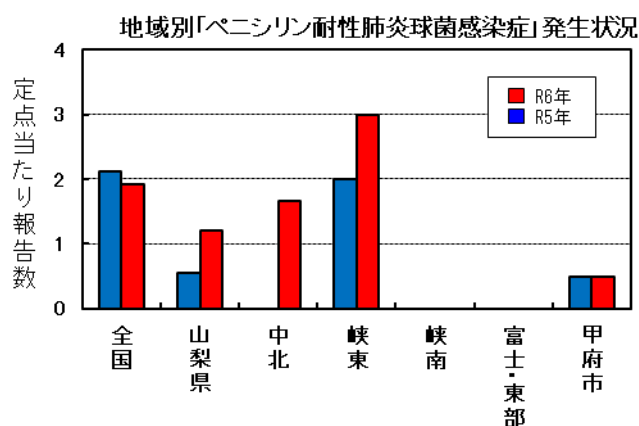
年間をとおして報告があったが、4月が4例（0.40）と最も多かった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内（3.00）であった。

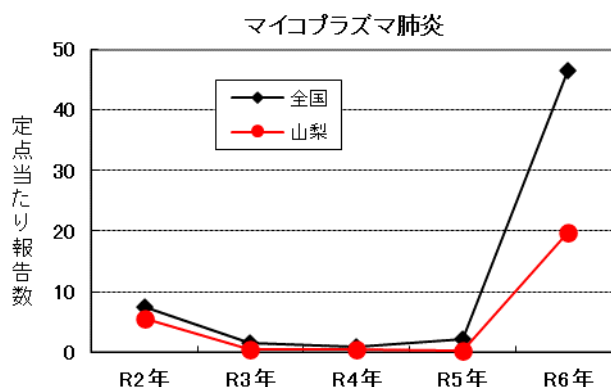
峡南保健所管内、富士・東部保健管内の報告はなかった。



○ マイコプラズマ肺炎

定点から 198 例（定点当たり報告数 19.80）の報告があり、前年 2 例（0.20）より大幅に増加した。

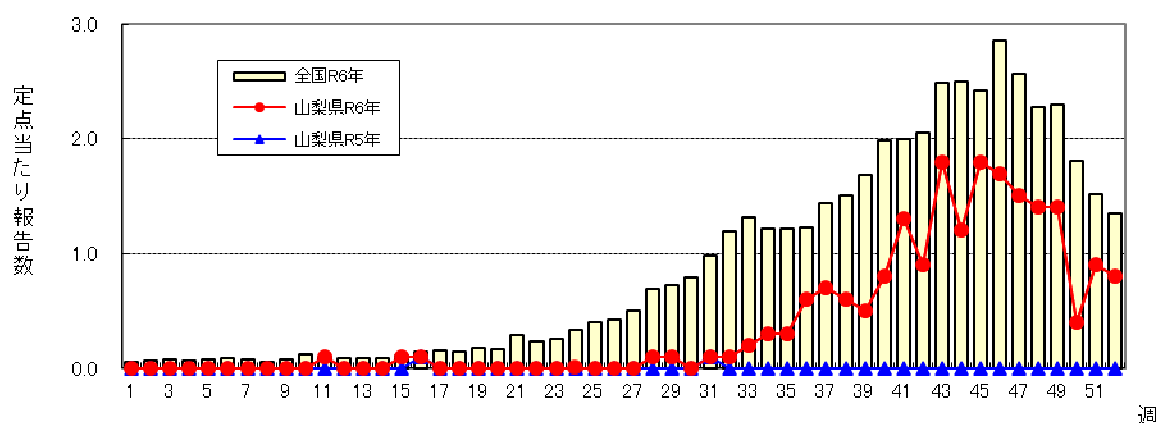
最近 5 年間は全国とほぼ同様に推移している。



《週別発生状況》

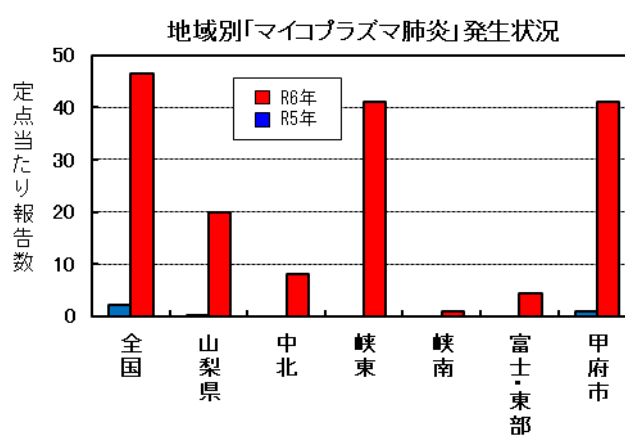
第 33 週から報告数が増加し、第 43 週、第 45 週（1.80）をピークとする冬期の流行がみられた。

週別「マイコプラズマ肺炎」発生状況



《地域別発生状況》

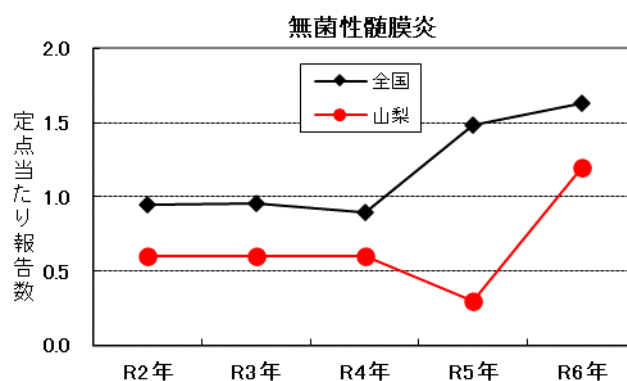
定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所、甲府市保健所管内（41.00）であり、この 2 保健所管内で県内報告数の約 8 割を占めた。



○ 無菌性髄膜炎

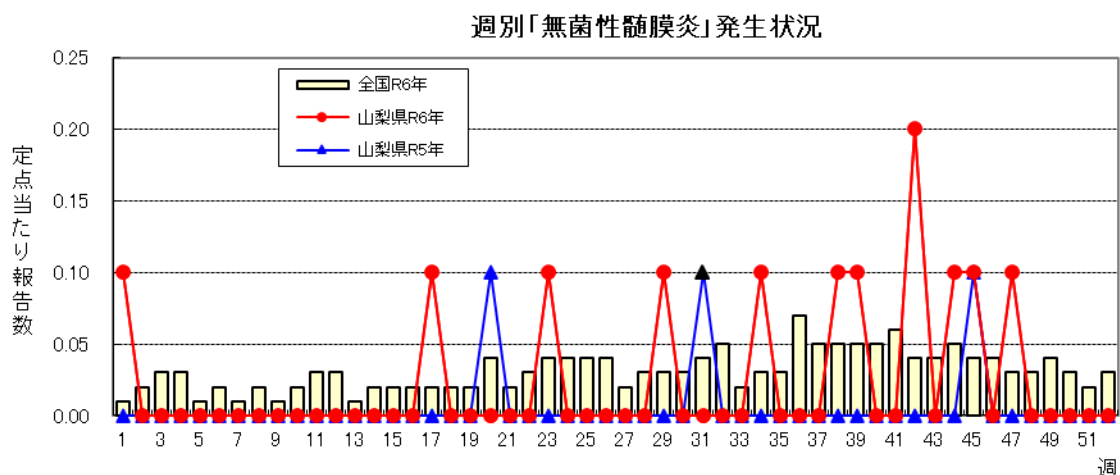
定点から 12 例（定点当たり報告数 1.20）の報告があり、前年 3 例(0.30)より増加した。

最近 5 年間は全国より少ない状況で推移している。



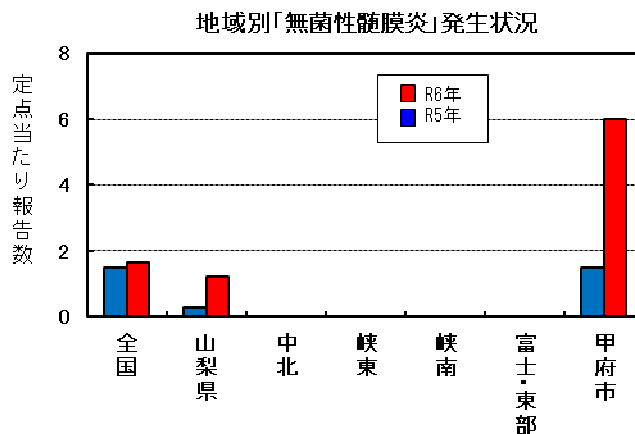
《週別発生状況》

年間をとおして報告があったが、第 42 週が 2 例（0.20）と最も多かった。



《地域別発生状況》

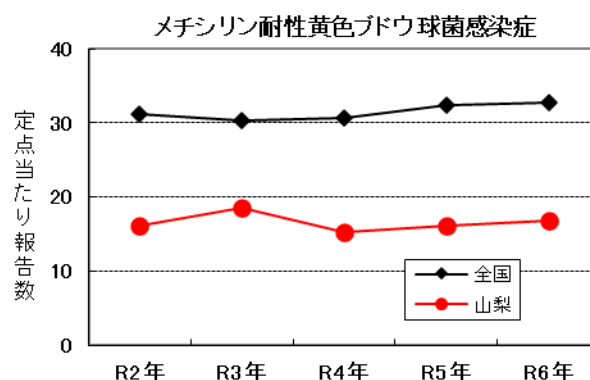
報告があったのは、甲府市保健所管内（6.00）のみであった。



○ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

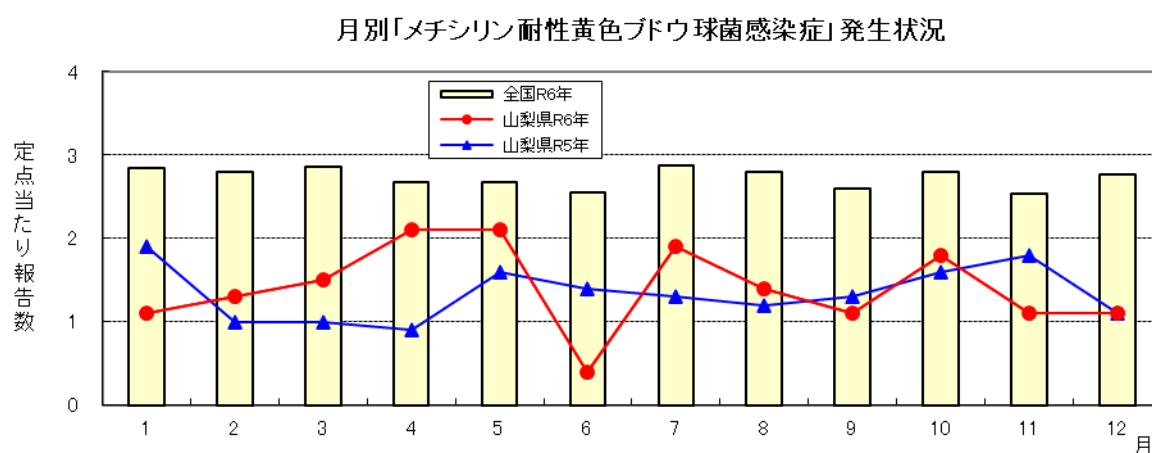
定点から 169 例（定点当たり報告数 16.90）の報告があり、前年 161 例（16.10）よりやや増加した。

最近 5 年間は、ほぼ横ばいで推移している。



《月別発生状況》

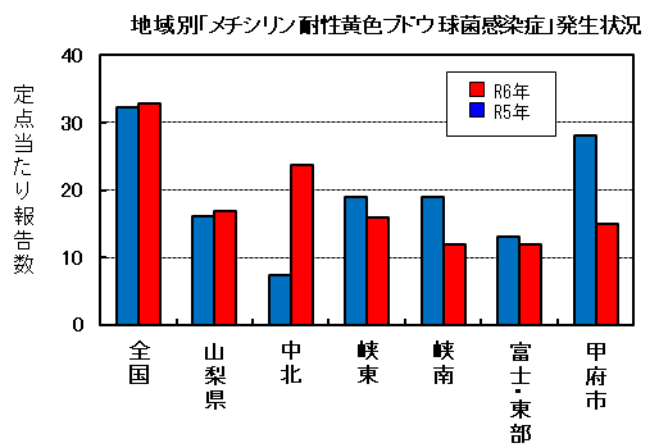
年間をとおして報告があったが、全国より少ない報告数であった。



《地域別発生状況》

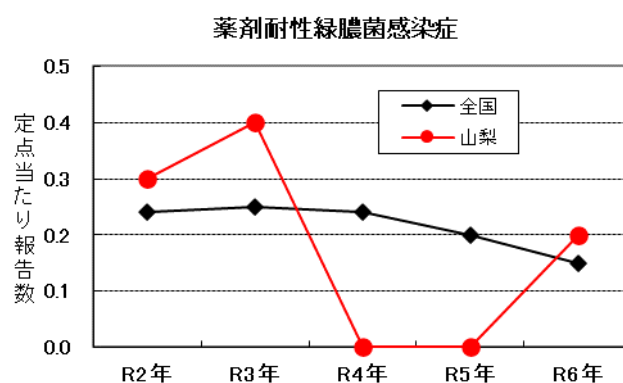
定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（23.67）であった。

中北保健所管内では前年より報告数が増加した。



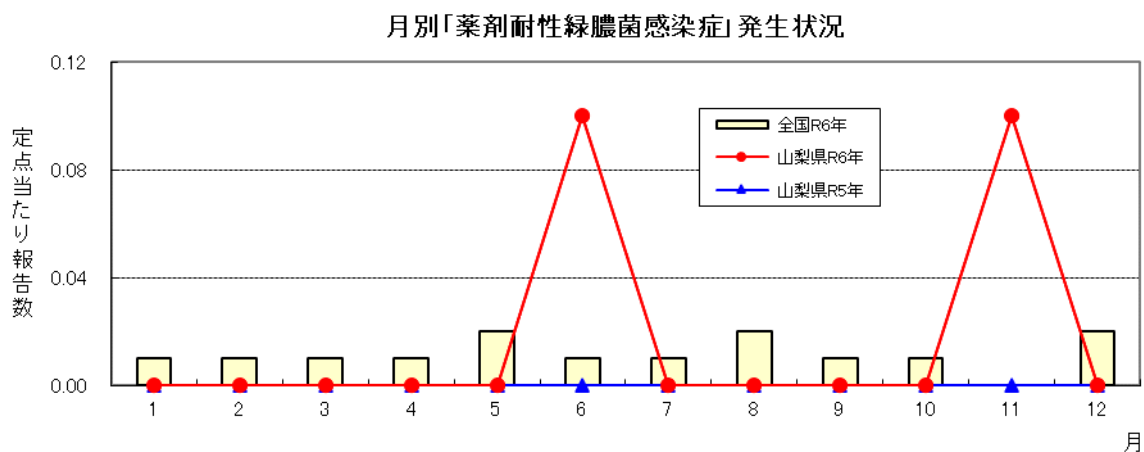
○ 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点から 2 例（定点当たり報告数 0.20）の報告があり、前年より増加した。



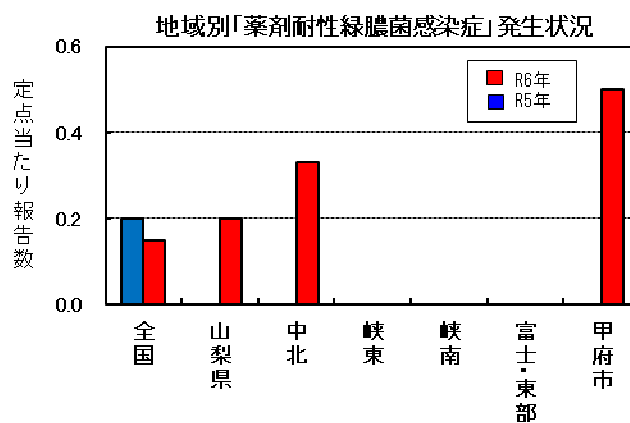
《月別発生状況》

6 月及び 11 月に各 1 例（0.10）の報告があった。



《地域別発生状況》

報告があったのは中北保健所管内（0.33）、甲府市保健所管内（0.50）であった。



Ⅲ 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況

県内 19 カ所の病原体定点（医療機関）及び県内での集団発生事例において採取された臨床検体 507 検体について県衛生環境研究所で検査を実施し、245 件のウイルスを検出した。

最も多く検出されたのはノロウイルス 81 件で、検出された全ウイルスの 33.1%を占めた。他に新型コロナウイルス 76 件、インフルエンザウイルス 59 件、サポウイルスを含むその他ウイルス 29 件が検出された。

検出ウイルス		2024年												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザウイルス	A(H1)pdm09	3	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	10	17
	A(H3)亜型	8	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	14
	B型ビクトリア系統	4	7	10	5	1	-	-	-	-	-	-	1	28
	B型山形系統	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
ヒトヘルペスウイルス	6型 VariantB	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヒトメタニューモウイルス		-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6
エンテロウイルス	D68型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	型別不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
ライノウイルス	A型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
アデノウイルス	37型	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	54型	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	型別不明	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
新型コロナウイルス		33	-	2	4	5	2	2	8	8	3	8	1	76
ノロウイルス	GI	-	-	9	6	-	-	-	-	-	-	-	-	15
	GII	26	3	8	2	4	2	3	-	-	2	5	11	66
サポウイルス		6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
ロタウイルス		-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	4
E型肝炎ウイルス	G3型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
水痘帯状疱疹ウイルス		-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	2
デングウイルス	1型	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
計		81	19	31	18	16	9	6	9	10	7	14	25	245

2 細菌検出状況

三類感染症の患者から分離された菌株について県衛生環境研究所で同定試験、血清型及び毒素型検査を実施したところ、次のとおりであった。

検出月	疾病名	検出菌	検出数
1月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0103:H2 (Stx1)	3
2月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0103:H2 (Stx1)	1
3月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0111:H8 (Stx1, 2)	1
		EHEC 0157:H7 (Stx2)	1
6月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 026:H11 (Stx1)	1
7月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0157:H7 (Stx1, 2)	2
		EHEC 026:H11 (Stx1)	1
9月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0157:H7 (Stx1, 2)	1
10月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0112ac:H16 (Stx2)	1
11月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC 0157:HNT (Stx2)	1
12月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC OUT:H2 (Stx2)	1

EHEC : 腸管出血性大腸菌 OUT : O型別不能 HNT : H型別未実施

IV 參考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

	患者定点							病原体定点				医療機関名称
	小	内	IC	眼	S	基	疑	イ指	小	眼	基	
甲府	○		○						○			隈部小児科医院
	○		○						○			今井小児科
	○		○					○				小松小児科医院
	○		○									いいじまこどもクリニック
	○		○									横田内科小児科医院
		○	○									竹居医院
		○	○									桜林内科消化器科医院
		○	○									内科小児科小野医院
		○	○									ほしの内科クリニック
				○						○		佐々木眼科医院
				○								二宮眼科医院
					○							梶山クリニック
					○							鈴木・野村泌尿器科クリニック
						○	○				○	市立甲府病院
						○	○				○	地方独立行政法人山梨県病院機構山梨県立中央病院
	5	4	9	2	2	2	2	1	2	1	2	
中北	○		○									中島医院
	○		○									森川医院
	○		○									西野内科医院
		○	○									竜王共立診療所
		○	○									大沢医院
				○								フルヤ眼科医院
					○							竜王レディースクリニック
						○					○	山梨大学医学部附属病院
	○		○					○				三井医院
	○		○									にこにこクリニック こでら小児科
	○		○									こもれびこどもクリニック
	○		○									アルプスこどもクリニック
	○		○									いいづかこどもとおとなのクリニック
		○	○									北杜市立白州診療所
		○	○									本町クリニック
		○	○									志村内科医院
				○								千野眼科医院
				○								堀内眼科
					○							まえざわクリニック
					○							田辺産婦人科
						○					○	巨摩共立病院
						○	○				○	北杜市立甲陽病院
	8	5	13	3	3	3	1	1	0	0	3	

	患者定点							病原体定点				医療機関名称
	小	内	IC	眼	S	基	疑	イ指	小	眼	基	
峡東	○		○									篠原医院
	○		○									三枝クリニック
峡東	○		○									あめみや医院
	○		○					○				池田内科小児科医院
		○	○									松里診療所
		○	○									飯島医院
		○	○									黒沢内科
				○								古川眼科医院
				○								古屋眼科
					○							加納岩総合病院
					○							長坂クリニック
						○	○				○	山梨厚生病院
						○					○	甲州リハビリテーション病院
	4	3	7	2	2	2	1	1	0	0	2	
峡南	○		○					○				溝部医院
	○		○									南部町国民健康保険診療所
峡南		○	○									飯富病院
						○	○				○	富士川病院
	2	1	3	0	0	1	1	1	0	0	1	
富士・東部	○		○					○				吉田医院
	○		○						○			武井クリニック
	○		○									都留市立病院
	○		○									つゆきこどもクリニック
	○		○									いしはらクリニック
		○	○									堀田医院
		○	○									川原医院
		○	○									しまだ医院
		○	○									富士ニコニコクリニック
				○								小林眼科医院
				○								野村眼科医院
					○							武者医院
					○							渡辺医院
						○	○				○	国民健康保険 富士吉田市立病院
						○	○				○	地方独立行政法人大月市立中央病院
	5	4	9	2	2	2	2	1	1	0	2	
合計	24	17	41	9	9	10	7	5	3	1	10	

【患者定点】

小：小児科定点
 内：内科定点
 IC：インフルエンザ／COVID-19定点
 眼：眼科定点
 S：性感染症定点
 基：基幹定点
 疑：疑似症定点

【病原体定点】

イ指：インフルエンザ病原体定点
 小：小児科病原体定点
 基：基幹病原体定点
 眼：眼科病原体定点

2 全数把握対象感染症の報告数（令和6年）

感染症	報告数		感染症	報告数	
	全国	山梨県		全国	山梨県
一類感染症			ハンタウイルス肺症候群	-	-
エボラ出血熱	-	-	Bウイルス病	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	鼻疽	-	-
痘そう	-	-	ブルセラ症	5	-
南米出血熱	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-
ペスト	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-
マールブルグ病	-	-	発しんチフス	-	-
ラッサ熱	-	-	ボツリヌス症	7	-
二類感染症			マラリア	45	-
急性灰白髄炎	-	-	野兎病	-	-
結核	16,238	64	ライム病	25	-
ジフテリア	-	-	リッサウイルス感染症	-	-
重症急性呼吸器症候群 （SARSコロナウイルスに限る。）	-	-	リフトバレー熱	-	-
中東呼吸器候群 （MERSコロナウイルスに限る。）	-	-	類鼻疽	2	-
鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	レジオネラ症	2,428	18
鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	レプトスピラ症	53	-
三類感染症			ロッキー山紅斑熱	-	-
コレラ	2	-	五類感染症		
細菌性赤痢	74	1	アメーバ赤痢	523	1
腸管出血性大腸菌感染症	3,748	16	ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	228	-
腸チフス	42	-	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2,293	10
パラチフス	7	-	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	48	1
四類感染症			急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、 ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、 ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）	633	5
E型肝炎	527	3	クリプトスポリジウム症	27	-
ウエストナイル熱 （ウエストナイル脳炎を含む。）	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	172	3
A型肝炎	137	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1,893	16
エキノコックス症	20	-	後天性免疫不全症候群	1,010	-
エムボックス	19	-	ジアルジア症	42	-
黄熱	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	651	1
オウム病	4	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	66	-
オムスク出血熱	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	2,555	5
回帰熱	11	-	水痘（入院例）	486	5
キャサスル森林病	-	-	先天性風しん症候群	-	-
Q熱	6	-	梅毒	14,816	41
狂犬病	-	-	播種性クリプトコックス症	191	2
コクシジオイデス症	4	-	破傷風	86	2
ジカウイルス感染症	4	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
重症熱性血小板減少症候群 （SFTSウイルスに限る。）	122	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	124	2
腎症候性出血熱	-	-	百日咳	4,093	8
西部ウマ脳炎	-	-	風しん	9	-
ダニ媒介脳炎	2	-	麻しん	45	-
炭疽	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	6	-
チクングニア熱	10	-	新型インフルエンザ等感染症		
つつが虫病	353	-	新型インフルエンザ	-	-
デング熱	231	1	再興型インフルエンザ	-	-
東部ウマ脳炎	-	-	再興型コロナウイルス感染症	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-			
ニパウイルス感染症	-	-			
日本紅斑熱	523	-			
日本脳炎	9	-			

（2025年3月集計）

3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数（令和6年）

感染症	全 国		山 梨 県	
	報告数	定点当たり 報告数	報告数	定点当たり 報告数
RSウイルス感染症	122,794	39.22	510	21.25
咽頭結膜熱	99,438	31.76	517	21.54
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	495,928	158.39	2,168	90.33
感染性胃腸炎	657,411	209.97	3,708	154.50
水 痘	28,330	9.05	133	5.54
手足口病	663,294	211.85	4,266	177.75
伝染性紅斑	32,189	10.28	101	4.21
突発性発しん	41,260	13.18	281	11.71
ヘルパンギーナ	74,783	23.88	364	15.17
流行性耳下腺炎	6,415	2.05	45	1.88
インフルエンザ	1,911,403	387.71	14,250	347.56
COVID－19	1,593,264	323.18	15,620	380.98
急性出血性結膜炎	720	1.04	77	8.56
流行性角結膜炎	20,302	29.25	582	64.67
性器クラミジア感染症	29,806	30.38	188	20.89
性器ヘルペスウイルス感染症	10,010	10.20	90	10.00
尖圭コンジローマ	6,387	6.51	17	1.89
淋菌感染症	8,791	8.96	40	4.44
感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに限る。）	335	0.70	1	0.10
クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	72	0.15	－	－
細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因とした場合を除く。）	523	1.09	7	0.70
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	916	1.91	12	1.20
マイコプラズマ肺炎	22,399	46.57	198	19.80
無菌性髄膜炎	786	1.63	12	1.20
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15,744	32.80	169	16.90
薬剤耐性緑膿菌感染症	72	0.15	2	0.20

(2025年3月集計)

4 前年（令和5年）との定点当たり報告数の比較

感染症	全 国			山梨県			山梨県/全国	
	R5年 2023(A)	R6年 2024(B)	(B)/(A)	R5年 2023(C)	R6年 2024(D)	(D)/(C)	R5年 (C)/(A)	R6年 (D)/(B)
RSウイルス感染症	46.35	39.22	0.85	27.92	21.25	0.76	0.60	0.54
咽頭結膜熱	56.73	31.76	0.56	18.92	21.54	1.14	0.33	0.68
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	84.77	158.39	1.87	15.71	90.33	5.75	0.19	0.57
感染性胃腸炎	243.89	209.97	0.86	256.58	154.50	0.60	1.05	0.74
水痘	5.18	9.05	1.75	2.58	5.54	2.15	0.50	0.61
手足口病	31.88	211.85	6.65	14.00	177.75	12.70	0.44	0.84
伝染性紅斑	0.71	10.28	14.48	0.29	4.21	14.52	0.41	0.41
突発性発しん	13.00	13.18	1.01	14.00	11.71	0.84	1.08	0.89
ヘルパンギーナ	62.02	23.88	0.39	42.46	15.17	0.36	0.68	0.64
流行性耳下腺炎	2.19	2.05	0.94	1.75	1.88	1.07	0.80	0.92
インフルエンザ	468.63	387.71	0.83	380.39	347.56	0.91	0.81	0.90
COVID-19*	278.14	323.18	1.16	325.71	380.98	1.17	1.17	1.18
急性出血性結膜炎	0.61	1.04	1.70	0.11	8.56	77.82	0.18	8.23
流行性角結膜炎	26.19	29.25	1.12	19.44	64.67	3.33	0.74	2.21
性器クラミジア感染症	31.78	30.38	0.96	18.22	20.89	1.15	0.57	0.69
性器ヘルペスウイルス 感染症	9.62	10.20	1.06	12.67	10.00	0.79	1.32	0.98
尖圭コンジローマ	6.73	6.51	0.97	2.11	1.89	0.90	0.31	0.29
淋菌感染症	9.83	8.96	0.91	3.89	4.44	1.14	0.40	0.50
感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0.32	0.70	2.19	0.30	0.10	0.33	0.94	0.14
クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	0.05	0.15	3.00	－	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球 菌を原因とした場合を除く。)	0.85	1.09	1.28	0.80	0.70	0.88	0.94	0.64
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2.11	1.91	0.91	0.50	1.20	2.40	0.24	0.63
マイコプラズマ肺炎	2.24	46.57	20.79	0.20	19.80	99.00	0.09	0.43
無菌性髄膜炎	1.48	1.63	1.10	0.30	1.20	4.00	0.20	0.74
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32.34	32.80	1.01	16.10	16.90	1.05	0.50	0.52
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.20	0.15	0.75	－	0.20	－	－	1.33

* 令和5年は5月8日からの数値

(2025年3月集計)

5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移（令和2年～令和6年）

感染症	全国					山梨県				
	R2年 2020	R3年 2021	R4年 2022	R5年 2023	R6年 2024	R2年 2020	R3年 2021	R4年 2022	R5年 2023	R6年 2024
RSウイルス感染症	5.74	71.98	38.35	46.35	39.22	1.75	32.50	26.26	27.92	21.25
咽頭結膜熱	11.14	10.81	8.05	56.73	31.76	2.71	2.13	1.09	18.92	21.54
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63.52	29.84	16.84	84.77	158.39	34.83	12.04	1.70	15.71	90.33
感染性胃腸炎	133.26	161.67	195.34	243.89	209.97	101.88	124.17	156.17	256.58	154.50
水痘	10.08	5.64	3.99	5.18	9.05	6.79	3.00	2.78	2.58	5.54
手足口病	5.83	24.47	50.61	31.88	211.85	1.75	2.92	36.96	14.00	177.75
伝染性紅斑	5.79	0.70	0.60	0.71	10.28	3.58	0.88	0.39	0.29	4.21
突発性発しん	20.79	19.08	14.98	13.00	13.18	12.00	10.92	10.52	14.00	11.71
ヘルパンギーナ	8.02	11.87	12.12	62.02	23.88	1.17	3.17	13.48	42.46	15.17
流行性耳下腺炎	2.56	2.32	1.57	2.19	2.05	1.79	2.08	0.78	1.75	1.88
インフルエンザ	114.25	0.22	5.20	468.63	387.71	105.59	0.02	4.55	380.39	347.56
COVID-19*				278.14	323.18				325.71	380.98
急性出血性結膜炎	0.27	0.20	0.27	0.61	1.04	0.11	0.11	－	0.11	8.56
流行性角結膜炎	13.09	9.85	9.37	26.19	29.25	19.11	6.33	6.11	19.44	64.67
性器クラミジア感染症	28.93	30.52	30.66	31.78	30.38	23.11	24.11	21.67	18.22	20.89
性器ヘルペスウイルス感染症	9.17	9.14	8.86	9.62	10.20	12.44	9.89	8.89	12.67	10.00
尖圭コンジローマ	5.79	5.70	6.08	6.73	6.51	1.00	2.00	2.56	2.11	1.89
淋菌感染症	8.64	10.58	10.17	9.83	8.96	4.56	4.56	7.33	3.89	4.44
感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに限る。）	0.52	0.19	0.21	0.32	0.70	－	0.10	0.10	0.30	0.10
クラミジア肺炎（オウム病を除く。）	0.12	0.05	0.07	0.05	0.15	0.10	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因とした場合を除く。）	0.85	0.77	0.63	0.85	1.09	0.70	0.20	0.30	0.80	0.70
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.84	1.77	1.45	2.11	1.91	0.60	0.20	0.80	0.50	1.20
マイコプラズマ肺炎	7.36	1.42	0.82	2.24	46.57	5.50	0.40	0.40	0.20	19.80
無菌性髄膜炎	0.95	0.96	0.90	1.48	1.63	0.60	0.60	0.60	0.30	1.20
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	31.19	30.30	30.74	32.34	32.80	16.20	18.60	15.20	16.10	16.90
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.24	0.25	0.24	0.20	0.15	0.30	0.40	－	－	0.20

* 令和5年は5月8日からの数値

(2025年3月集計)

6 警報・注意報レベル発令週

感染症		保健所				
		中北	峡東	峡南	富士・東部	甲府市
インフルエンザ	(警報)	51、52	51、52	51、52	1、51、52	51、52
	(注意報)	2～14 49、50	2、3 11～13、50	1～3	3～13	3、4、11 12、50
咽頭結膜熱	(警報)	－	－	－	－	1～4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(警報)	－	－	－	－	13、14、17 18、20～25
水痘	(注意報)	5	－	－	49	25
手足口病	(警報)	22～48	20、36～38 40～46	47	27～49	20～52
急性出血性結膜炎	(警報)	－	－	－	24～31、34 35、37	－
流行性角結膜炎	(警報)	51、52	－	－	23	－

7 感染症発生動向調査の調査報告週対応表

令和 6 年

週	調査週間	週	調査週間	週	調査週間
1	1/1 ~ 1/7	19	5/6 ~ 5/12	37	9/9 ~ 9/15
2	1/8 ~ 1/14	20	5/13 ~ 5/19	38	9/16 ~ 9/22
3	1/15 ~ 1/21	21	5/20 ~ 5/26	39	9/23 ~ 9/29
4	1/22 ~ 1/28	22	5/27 ~ 6/2	40	9/30 ~ 10/6
5	1/29 ~ 2/4	23	6/3 ~ 6/9	41	10/7 ~ 10/13
6	2/5 ~ 2/11	24	6/10 ~ 6/16	42	10/14 ~ 10/20
7	2/12 ~ 2/18	25	6/17 ~ 6/23	43	10/21 ~ 10/27
8	2/19 ~ 2/25	26	6/24 ~ 6/30	44	10/28 ~ 11/3
9	2/26 ~ 3/3	27	7/1 ~ 7/7	45	11/4 ~ 11/10
10	3/4 ~ 3/10	28	7/8 ~ 7/14	46	11/11 ~ 11/17
11	3/11 ~ 3/17	29	7/15 ~ 7/21	47	11/18 ~ 11/24
12	3/18 ~ 3/24	30	7/22 ~ 7/28	48	11/25 ~ 12/1
13	3/25 ~ 3/31	31	7/29 ~ 8/4	49	12/2 ~ 12/8
14	4/1 ~ 4/7	32	8/5 ~ 8/11	50	12/9 ~ 12/15
15	4/8 ~ 4/14	33	8/12 ~ 8/18	51	12/16 ~ 12/22
16	4/15 ~ 4/21	34	8/19 ~ 8/25	52	12/23 ~ 12/29
17	4/22 ~ 4/28	35	8/26 ~ 9/1		
18	4/29 ~ 5/5	36	9/2 ~ 9/8		

感染症発生動向調査事業報告書

—令和 6（2024）年版—

令和 7 年 11 月 発行

編集・発行 山梨県感染症情報センター
(山梨県感染症対策センター)

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内 1-6-1

電話 055-223-1321

https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html

